

令和6年度 普及指導活動のまとめ



上北地域県民局地域農林水産部

表紙の写真について

令和6年11月29日

ノウフク交流会

令和6年8月21日

モデル集落(一本松) WS

令和6年5月31日

4HC支柱立て

令和7年2月19日

4HC合同プロジェクト

発表会

は し が き

令和6年を振り返ると、春先から気温が高めに推移し、昨年のような猛暑が心配されましたが、農作物は概ね順調に生育したほか、台風等による大きな気象災害もなく、出来秋を迎えることができました。

水稻の作況指数は南部・下北で106の「良」となり、にんにく、ながいも、ごぼうなどの主力野菜も比較的良好な作柄で、販売価格も全般的に高く取引されましたが、肉用子牛の取引価格は物価高や牛肉需要の減少により低迷しています。

本県農業を取り巻く環境は、担い手の減少や労働力不足などの課題が顕在化していることに加え、燃油等資材価格の高騰に伴う生産・流通コストの上昇など厳しい状況が続いています。

こうした中、県では、県政運営の新たな基本方針である「青森県基本計画『青森新時代』への架け橋」と併せて、青森新時代「農林水産力」強化パッケージを策定し、若い生産者をはじめ、誰もが希望を持って働けるよう所得増にこだわった施策を積極的に展開しているところです。

その中で当農業普及振興室では、地域の経営体、農業協同組合、市町村等と連携しながら、ながいもの種苗増殖法の転換による産地力や新規就農者等若手農業者の育成、女性農業者の活躍促進による農山漁村の活性化、農福連携による障がい者の就労促進、長引く物価高騰に対応したスマート農業機械の導入支援等に取り組みしました。

本冊子は、これらの取組や、地域の情勢、農業者の動向等を取りまとめたものです。御支援、御協力いただきました関係者の皆様に心から御礼申し上げますとともに、今後の参考となれば幸いです。

令和7年3月

上北地域県民局地域農林水産部長

板 垣 正 彦

目 次

○ 地域農林水産部の組織体制及び農業普及振興室の班体制

I 写真で見る今年度のトピックス

1 中部上北地域の水田農業推進に向けた取組	1
2 上北地域集落営農活性化協議会研修会	1
3 あおもり型農村RMOモデル集落の取組支援	2
4 ヤングファーマーゼミナール	2
5 農福連携の広がり	3
6 おいらせ町・東北町の水稲生育障害に係る生育指導	3

II 表彰及び認定

1 第44回「田中稔賞」受賞 ～竹ヶ原直大氏（十和田市）～	5
2 農業経営士・青年農業士の認定	6
3 V i C・ウーマンの認定	8

III 普及指導活動の実績

1 令和6年度普及指導計画に基づく主な普及指導活動	
（1）担い手育成と種苗増殖法の転換によるながいも産地力の強化	9
（2）技術改善と基本技術の徹底による大豆の生産力強化	11
（3）新規就農者の定着と経営管理能力の強化	12
（4）次代に引き継ぐ上北集落営農活性化	13
2 普及関連組織の活動状況	
（1）農業士会	14
（2）かみきたV i C・ウーマンの会	16
（3）かみきた農と暮らしの研究会	17
（4）とわだグリーン・ツーリズム研究会	18
（5）農村青少年クラブ	19
3 普及情報の発行・発信	
（1）かみきた楽農通信	21
（2）上北農業生産情報	21
（3）インターネットサイトによる情報提供	21

Ⅳ 令和6年度実施事業

1 農業普及振興室直営事業

(1) 持続可能な中部上北スタイル水田農業推進事業（県民局重点枠）	23
(2) 次代に引き継ぐ上北地域集落営農活性化事業（県民局重点枠）	24
(3) 農山漁村女性の経営参画推進普及事業（国庫）	25
(4) 農山漁村女性起業課題解決・活躍促進事業（国庫）	26
(5) 青森県ユニバーサル農業推進事業（国庫・県単）	28
(6) みんなが食育アクション事業（国庫・県単）	29
(7) 放射性物質モニタリング調査（県単）	30
(8) 青森県特別栽培農産物認証制度（県単）	31
(9) 新規就農者定着推進事業（県単）	32
(10) あおもり新農業人サポート事業（県単）	33
(11) あおもり型農村RMO育成事業（県単）	34
(12) 指定種子検査事業（県単）	36

2 補助金・交付金事業

(1) 青森県農林水産関連物価高騰等対策事業（県単）	38
(2) 青森県物価高騰対応「スマート農業機械」導入促進事業（県単）	38
(3) 青森県野菜等産地力強化支援事業（県単）	39
(4) 環境保全型農業直接支払交付金（国庫）	40
(5) 農業委員会交付金等（国庫）	41
(6) 新規就農者育成総合対策事業（国庫）	42
(7) 地域計画策定推進緊急対策事業（国庫）	43
(8) 青森県経営所得安定対策等推進事業（国庫）	44
(9) 鳥獣被害防止総合対策交付金（国庫）	45
(10) 青森県県外人材雇用受入環境整備支援事業（県単）	45
(11) 青森県GAP認証取得推進事業（国庫）	46

3 その他の事業

(1) 青森ブランド野菜所得向上対策事業（ながいも所得対策）（県単）	47
(2) 青森ブランド野菜所得向上対策事業（にんにく所得対策）（県単）	48

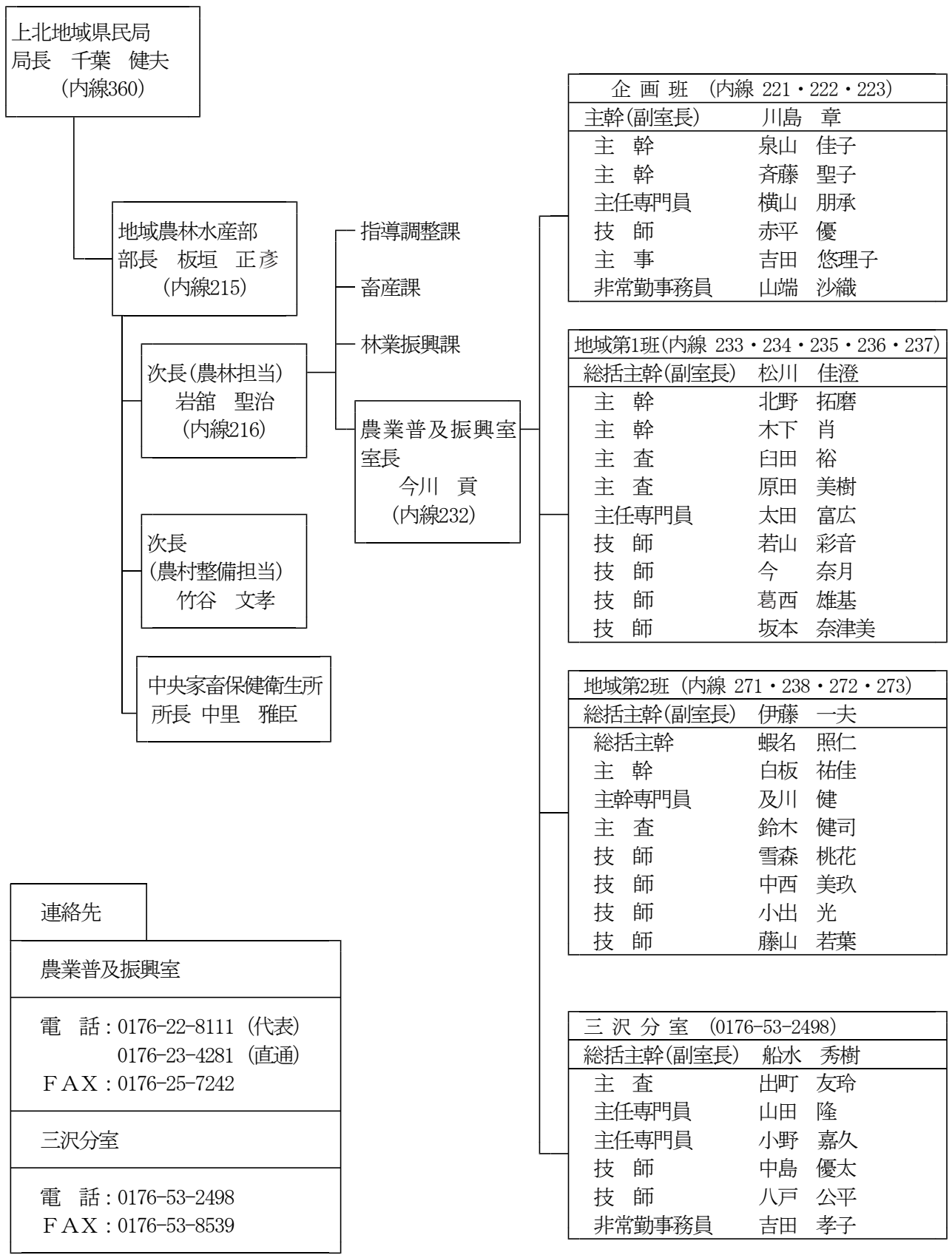
Ⅴ 気象経過と農作物の生育状況

1 気象経過の概要と半旬別気象図	49
2 水稻	52
3 畑作物	55
4 野菜	57
5 花き	63
6 果樹	64
7 飼料作物	65

VI 付表

1 地域農業の概要	67
2 令和6年度生育観測ほ及び各種展示ほ一覧	72
3 上北地域の農業士会	76
4 かみきたVIC・ウーマンの会	77
5 かみきた農と暮らしの研究会	77
6 とわだグリーン・ツーリズム研究会	77
7 農村青少年クラブ	78
8 直売運営団体	79

○ 地域農林水産部の組織体制及び農業普及振興室の班体制
(令和6年4月1日現在)



I 写真で見る今年度のトピックス

1 中部上北地域の水田農業推進に向けた取組

小川原湖周辺の土場川地区では、県南地方で最大規模となる484haのほ場整備が行われ、大区画ほ場の活用や農地集積が進んでいくことが期待されているが、整備された水田への高収益作物の導入が思うように進んでいないことから、県民局重点枠事業により、農道ほ場整備課と協力しながら軟弱地盤の克服やスマート農業導入に向けた取組を行った。

今年度は、土場川地区内に、にんにく作付け実証ほとたまねぎ作付け実証ほを各1か所設置し、直播実演会を開催したほか、秋田県大潟村及び由利本荘市において、水稻作におけるスマート農業の取組、水田における野菜生産に係る取組事例を視察した。



秋田県大潟村 涌井氏との対談(7/22)



にんにく作付け実証ほ(11/15)

2 上北地域集落営農活性化協議会研修会

「上北地域集落営農活性化協議会」を構成している集落営農組織は、水稻を主たる作物として栽培していることから、令和5年に本格デビューした水稻新品種「はれわたり」の良食味・高品質栽培を支援するため、管内3か所の生育観測ほを巡回して登熟状況を確認し、適期刈り取り時期の確認をした。

また、ほとんどの集落営農組織が、経営所得安定対策の一環としてWC S用稲、飼料用米の栽培をしていることから、稲WC Sや稲S G Sに濃厚飼料やミネラル等を混合した混合飼料を製造しているTMRセンターを視察し、上北地域内の耕畜連携の取組への理解を深めた。



はれわたり現地研修(8/28)



TMR現地研修(12/10)

3 あおもり型農村RMOモデル集落の取組支援

持続可能で活力ある農山漁村をつくるため、十和田市の一本松集落をモデル集落として選定し、地域経営体を中心とした稼ぐ力のある「あおもり型農村RMO」の育成に向けて関係機関と連携し取組を支援している。

一本松集落では、住民が集落でいきいきと暮らしていくための仕組みづくりについて集落住民の有志による定期的な話し合いの場から出たアイデアをもとに、共用地の保全や高齢者の見守り等の取組につなげている。その一環として今年度は、集落外の住民を対象とした「食堂一本松」の運営や、そば打ち体験等のイベントを実施し、新たな交流人口の創出に向けて取り組んだ。



食堂一本松お披露目会 (4/22)



そば打ち体験受入 (12/7)

4 ヤングファーマーゼミナール

上北県民局管内の若手農業者の営農能力向上を図るため、新規就農者等を対象に全17回のヤングファーマーゼミナールを開催した。研修は、農薬や土づくりの基礎から、経営管理まで就農するにあたって不可欠なテーマで行われ、延べ65人が参加した。

また、講義後のアンケートや参加者の希望から、農業経営士をはじめとする先輩農業者や大規模に土地利用型作物を栽培する農業法人等を見学し、作業管理工程の工夫や経営発展の手法等を学んだ。



先輩農業者研修 (9/10)



営農基礎研修（堆肥の基礎知識）(12/2)

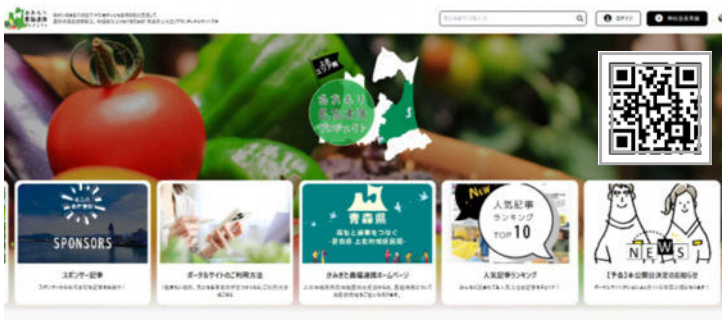
5 農福連携の広がり

「農福連携」とは、農業と福祉が連携し、障がい者の農業分野での活躍を通じて、農業経営の発展とともに障がい者の自信や生きがいを創出する取組である。そして、県では新たに、農業だけでなく、林業、水産業への広がりを展開している。

今年度、当室では、福祉事業所が開設したポータルサイト「あおり農福連携プロジェクト」及び管内3農協等と連携し、農業者と福祉事業所をマッチングし、農福連携を体験してもらう「チャレンジ農福」を13件（うち林業と連携する「林福」が1件）実施した。そのうち、おいらせ町で実施したチャレンジ農福では「農福連携現地検討会」を開催し、参加者は本取組について理解を深めていた。また、農業者と福祉事業所をつなぐ場として、初めて十和田市で「かみきたノウフク交流会」を開催し、ポータルサイト利用者同士が実際に会って話すことでお互いを知り、マッチングを進めるための良い機会となった。

県では、農福連携の次なるステージとして、障がい者をはじめ、生きづらさを感じている者や高齢者を含む、多様な人々が従事できる農業を「ユニバーサル農業」と呼んでいる。

多様な人々が地域を支える「地域共生社会」の実現のため、今後はユニバーサル農業の推進に取り組んでいく。



「あおり農福連携プロジェクト」HP画面・QRコード



交流会での自由歓談の様子(11/29)

6 おいらせ町・東北町の水稲生育障害に係る生育指導

本年5月下旬、おいらせ町と東北町の水田において、水稲の生育障害が立て続けに発生した。おいらせ町では11.6ha、東北町では30haの水田で被害が確認された。おいらせ町では原因として、用水に海水が混入した可能性が考えられた。東北町では、何らかの原因で取水している小川原湖の塩分濃度が高くなっていた。

おいらせ町では、被害確認時に一部の水田でEC値を測定したところ、基準値を上回る値が検出されたため、おいらせ町役場において対策会議を3回開催し、進捗状況の把握と除塩対策の検討を行った。また、農業普及振興室では、定期的な調査を実施し全ての被害水田のEC値の推移を把握するとともに、土地改良区等関係者での説明会等において、生産者への除塩対策の指導を徹底した。その結果、徐々に被害水田のEC値の低下がみられた。今後は、春季に被害水田のEC値を測定し、値が0.5mS/cm以上の場合は、水田内の除塩作業を計画的に進めるよう助言していく。

I 写真で見る今年度のトピックス



おいらせ町で塩害を受けた水田(6/6)



奥入瀬川東部土地改良区での耕作者説明会(6/6)

東北町でも生育障害が確認された地域で水質調査をしたところ、同様にE C値が基準を上回った。このため、東北町、農協、土地改良区と言った関係機関と連携し、生育の回復と収量確保に向けた対策を行った。町役場とともに生育期間を通じて水田内のE C調査を行い、その結果を基に町主催で対象地区内の農家に説明会を行った。説明会では、水稻の生育状況と土壌の除塩作業が必要となった場合の対応を説明した。8月以降も用水の水質について町と協力して調査を継続すること、作付終了後に土壌E Cの調査を実施した上で、その結果を基に生産指導を行うこととした。影響を受けたほ場での収量は、対象農家への聞き取りで最大2割程度の減収となり、品質は2等米が多かったとのことであった。

収穫後の土壌E Cを測定した結果では、除塩基準値を下回っていたため、作付前の土壌E C測定結果により除塩作業の有無を判断する。除塩作業が必要な場合、その技術について指導するとともに、令和7年産米の生産に向けた健苗育成や適期田植の推進等の基本的技術の励行を指導していく。



東北町 被害水田の状況(6/4)



東北町 被害水田の状況(6/4)

Ⅱ 表彰及び認定

1 第44回「田中稔賞」受賞 竹ヶ原^{なおひろ}直大氏

稲作農業などを模範的に実践し、協調性・指導性により地域農業の振興に寄与し、本県稲作農業の発展に顕著な業績をあげた個人または団体に贈られる「田中稔賞」を十和田市の竹ヶ原直大さんが受賞した。

竹ヶ原さんの経営耕地面積は168haで、内訳は、水稻81ha、大豆28ha、小麦14ha、牧草45haである。水稻は、全て食用米「まっしぐら」を作付けし、スマート農機の活用と高密度播種苗栽培の導入により労働負担の大幅な軽減と作付面積の拡大を可能にしているほか、牛ふん堆肥投入による土づくりと独自の混合肥料作成による良質米の安定生産が高く評価されての受賞となった。



田中稔稲作顕彰会・会長からの賞状授与(12/19)



受賞記念撮影(12/19)

2 農業経営士・青年農業士の認定

農業経営士は、優れた農業経営を実践し地域農業や農村生活のリーダーとして指導的役割を果たしている農業者を県知事が認定し、その指導活動の促進を図る制度である。上北管内では令和6年4月1日現在40名が活躍しており、今年度3名が認定期間満了となるとともに新たに3名が認定された。

青年農業士は、自ら農業及び集団活動に積極的に取り組み、将来とも地域農業の推進者となり得る模範的な農業青年を知事が認定し、その資質向上を図る制度である。上北管内では令和6年4月1日現在40名が活躍しており、今年度5名が認定期間満了（うち1名が農業経営士に認定）となるとともに新たに5名が認定された。

（１）農業経営士



新堂 友和（しんどう ともかず）氏

ア：三沢市

イ：ながいも、ごぼう、にんにく

ウ：三沢市農業委員、青森県農業法人協会

エ：地域をけん引する農業者としての自覚を持ち、更なる地域農業振興のため邁進するとともに、若い人材が夢や希望を持って農業を志し、続けていけるよう貢献していきたい。

ア：市町村

イ：経営内容

ウ：主な組織活動

エ：今後の目標



後村 賢太（あとむら けいた）氏

ア：おいらせ町

イ：だいこん、ごぼう、ながいも、にんじん、ねぎ等

ウ：おいらせ町認定農業者の会

エ：温暖化への対応による生産力の維持、スマート農業の推進による作業の効率化を図っていくとともに、担い手の確保や遊休農地の解消など農業の課題に前向きに取り組んでいきたい。



岡部 雄一（おかべ ゆういち）氏

ア：六ヶ所村

イ：酪農

ウ：JAゆうき青森理事

エ：経営規模は現状維持としつつも、耕畜連携による飼料価格高騰への対応や、気象変動への対応を進めていく。また、地域の仲間と協力して、経営改善に有効な情報の収集に当たっていききたい。

(2) 青年農業士



太田 聡史（おおた さとし）氏

ア：三沢市

イ：だいこん、ながいも、ごぼう

ウ：4 Hクラブ、三沢市農業青年会議、J Aおいらせ青年部

エ：自分の経験談や農業の面白さを後輩に伝えていきたい。また、経営規模は現状維持としつつも、高品質化、収量アップに向け安定した生産基盤を築いていきたい。



沼田 麻憲（ぬまた まさのり）氏

ア：三沢市

イ：ごぼう、にんにく、アスパラ

ウ：4 Hクラブ、三沢市農業青年会議、J Aおいらせ青年部

エ：後輩には自分の体験談を伝えるとともに、切磋琢磨できる関係を築いていきたい。先進的な機械や資材を取り入れながら、経営規模は徐々に拡大していきたい。



吹越 邦夫（ふきこし くにお）氏

ア：東北町

イ：水稻、だいこん、ながいも、ごぼう

ウ：J Aゆうき青森青年部、東北町農業経営者会議

エ：契約栽培や多品目栽培でリスク分散させることを心がけている。品質を担保できる面積の範囲内で規模拡大していきたい。仲間と切磋琢磨しながら地域の経営発展を目指していきたい。



久保田 大地（くぼた だいち）氏

ア：東北町

イ：だいこん、ながいも、ごぼう、キャベツ

ウ：4 Hクラブ、J Aゆうき青森青年部、東北町農業経営者会議

エ：規模拡大に向けて、通年雇用できる環境を整えていきたい。また、スマート農業関連機械も必要に応じて導入したい。地域の先輩や仲間との情報交換をとおして技術力を高めていきたい。



坂本 啓悟（さかもと けいご）氏

ア：東北町

イ：水稻、ごぼう、ながいも、そば

ウ：J A十和田おいらせ青年部、野菜振興会上北支部

エ：営農技術の向上に合わせて規模拡大したい。地域の先輩や仲間たちと切磋琢磨しながら課題を解決し、自らや地域の農業経営の発展を目指し努力していきたい。

3 V i C・ウーマンの認定

県では、特色ある地域農林水産業や住みよい社会づくりに取り組み、優れた地域活動の実績を持つ農山漁村女性リーダーを、知事が「V i C・ウーマン」として認定している。本制度は、平成6年度からスタートし、現在、県内全体で195名のV i C・ウーマンが、地域農林水産業の振興や農山漁村の活性化の推進役を担っている。

上北管内では、令和6年4月現在43名がV i C・ウーマンとして活躍しており、今年度新たに次の2名が認定された。



赤石 雅子（あかいし まさこ）氏

ア：六戸町

イ：水稻、露地野菜

ウ：J Aおいらせ女性部六戸支部

エ：夫と共に水稻とにんにくを生産しており、主体的に農業経営に携わっている。また、J Aおいらせ女性部六戸支部に所属し、食育ソムリエの資格を生かして地元産食材の料理を披露したり考案したレシピを紹介するなど、町の農産物のP Rと消費拡大に貢献している。また、地域農業の活性化を目指し、同世代の女性農業者達と積極的な交流を図っている。

ア：市町村

イ：経営内容

ウ：主な組織活動

エ：今後の目標



赤石 美樹（あかいし みき）氏

ア：おいらせ町

イ：野菜（ハーブ）、加工

ウ：なし

エ：夫とともにハーブの生産及び加工に取り組んでいるほか、美樹氏は販売部門を主に担当しており、ハーブのP Rと消費拡大に積極的に取り組んでいる。近年では、青森県立百石高等学校調理科の生徒に対する出前授業やハーブの生産を志す方の実習において、加工・販売の面で講義を担当する等、次世代の担い手育成に取り組んでいる。

今後も引き続き、ハーブをとおして地域農業の活性化に取り組む意向である。

Ⅲ 普及指導活動の実績

1 令和6年度普及指導計画に基づく主な普及指導活動

(1) 担い手育成と種苗増殖法の転換によるながいも産地力の強化

(対象名 ①管内3 J Aながいも担い手育成塾生 81名

② J A十和田おいらせ野菜振興会ながいも採種担当農家 3名

③ J Aゆうき青森野菜振興会種子部会 10名

④ J Aおいらせながいも採種生産組合 8名)

【概要】

J Aと連携した現地検討会等の実施により、ながいも栽培の基本技術の徹底を支援した。また、若手農業者を対象として、生産技術チェックシートを活用した個別指導を実施し、栽培管理の改善を促した。さらに、種苗供給体制の確立に向け、ウイルス検査や実証ほを設置し切いも体系への転換を支援した。

【背景・課題】

- ・指導対象①は産地をけん引していく生産者であるため、各種研修やながいも生産技術チェックシートを活用した指導により栽培技術の向上を図る必要がある。
- ・指導対象②③④は各農協で一般農家への種苗供給を行っていることから、ウイルス抜き指導や品質特性を維持できる「切いも」体系へ転換し優良種苗を安定的に供給していく必要がある。



切いも栽培実施者の
個別巡回(5/16)



ながいも現地検討会(6/14)



採種ほウイルス検査後
の講評(9/3)

【普及指導活動の内容】

- ・農協と連携し、現地検討会や栽培講習会を実施した。また、「ながいもプロフェッショナル養成所研修」への参加誘導や生産技術チェックシートを活用して個別巡回指導を実施した。(対象名①)
- ・採種ほ検査や種苗増殖体系における切いも体系への転換に向けた検討会等を開催した。また、種苗増殖方法改善実証ほや新品種栽培技術試験展示ほを計5か所設置した。(対象名②③④)

【成果】

- ・ながいも担い手育成塾生に対して個別指導を行った結果、排水対策や土壌診断、輪作体系、追肥時期・回数、種いも栽培における植付け時期や植付け深、種子ほ場への障

Ⅲ 普及指導活動の実績

壁作物導入等について改善するなど、担い手農家のレベルアップにつながった。(対象名①)

- ・現地検討会や採種ほ検査等を通じて指導した結果、種苗供給の重要性が理解された。また、切いも体系への転換に向け、切いも巡回指導や、種苗増殖や新品種の実証ほを活用しながら指導した結果、成いも切断後のキュアリングや催芽処理等の技術が向上してきた。(対象名②③④)

(関連事業：青森ブランド野菜所得向上対策事業（ながいも所得対策）)

（２）技術改善と基本技術の徹底による大豆の生産力強化

（対象名 集落営農組織 5 組織、大規模生産者15戸 計20経営体）

【概要】

生産情報の提供、栽培講習会・現地検討会の開催及び実証ほの設置により、適期作業と基本技術の徹底を支援したほか、大豆栽培技術改善策整理表の作成を通じて、各経営体の課題を洗い出し、技術改善の取組を支援した。



現地検討会の開催 (7/9)



上北地域大豆生産者座談会 (2/27)

【背景・課題】

大豆の収量は年次変動が大きいことに加え、資材価格の高騰等により安定した所得の確保が難しいことが懸念された。そこで、基本技術の徹底と経営体に合わせた効果的な技術改善策の導入により、大豆生産における生産性の向上を図る必要がある。

【普及指導活動の内容】

- ・生産情報紙「だいず通信」を発行し、生育調査結果に基づいた作業適期を細やかに情報発信し、基本技術の徹底や適期作業の実施を支援した。
- ・経営体ごとに大豆栽培技術改善策整理表を作成し、使用資材の見直しによる生産コストの低減や多発雑草に合わせた除草剤の使用、病虫害防除薬剤の効果的な使用による収量・品質の向上を働きかけ、改善技術の導入を支援した。
- ・堆肥利用による大豆連作条件下での収量確保に向けた実証ほ、茎葉処理除草剤の散布時期の早晩による除草効果を検証する実証ほを設置し、地域に合った栽培方法の確立に向けて取り組んだ。また、実証ほにて現地検討会を行い、適期作業及び雑草管理について指導した。
- ・大豆生産者座談会の開催により、生産者やJA、県等の関係機関で大豆の生産性向上に係る情報共有を行い、改善技術の導入効果等を確認した。

【成果】

- ・生産情報紙「だいず通信」は作業計画に役立てられ、使用薬剤や防除時期の見直しにより、栽培管理の適正化が図られた。
- ・栽培講習会及び現地検討会の開催により、ほ場の適正管理及び適期作業への意識が高まり、ほ場の雑草、病虫害の適期防除が行われた。

（関連事業：大豆安定生産技術向上支援事業）

（３）新規就農者の定着と経営管理能力の強化

（対象名 農業次世代人材投資資金受給者、青年等就農資金借入者等）

【概要】

新規就農者の知識・技術の向上を図るため、いきいきヤングファーマーゼミナールを開催し、栽培から経営まで幅広い知識・技術等の習得を支援するとともに、生産技術の不足等特に支援の必要性が高いと考えられた新規就農者を重点指導対象者とし、個々の課題に対応した支援を行った。また、農業次世代人材投資事業を活用し、関係機関等とのサポート巡回をとおして、新規就農者に対する指導助言及び情報の共有を行った。



十和田市サポート巡回（9/3）



農業経営士の取組を見学(10/30)



農作業安全研修（11/12）

【背景・課題】

新規就農者の多くは、農業に関する知識・技術が不足し、農産物の収量品質が不安定で、さらに経営感覚も身に付いていないことから、目標となる所得を確保できていない。

このため、市町村段階でのサポート体制の充実強化を図りながら新規就農者の生産技術や経営管理能力、資金管理能力の向上に対する支援を行っていくことが重要である。

【普及指導活動の内容】

- ・ヤングファーマーゼミナールにおいて、「農薬の種類や使用方法」、「土づくりや肥料計算」、「堆肥の基礎知識」などの営農基礎研修、「対話型研修」、「VRを活用した農作業事故体験」などの農作業安全研修、「複式簿記の基礎」、「パソコンを活用した複式簿記の実践」などの経営研修を行った。さらに、地域の青年農業士等の取組を見学し、情報交換を行う研修も実施した。
- ・重点指導対象者の病虫害防除や栽培管理等の課題について、室内の作物担当者や農協の営農指導員、農業経営士等の協力を得ながら解決を支援した。
- ・日本政策金融公庫と連携し、青年等就農資金の借入相談に対応したほか、借受希望者の経営改善資金計画の作成を支援した。

【成果】

- ・ヤングファーマーゼミナールの研修において実演展示や体験などを取り入れた研修を増やしたことにより、受講者の理解をより深められ、能力向上を図ることができた。
- ・新規就農者の多くが課題解決が図られ、栽培技術等が向上した。

（関連事業：新規就農者定着推進事業、新規就農者育成総合対策事業）

（４）次代に引き継ぐ上北集落営農活性化

（対象名 管内集落営農組織17組織）

【概要】

上北管内の集落と水田農業の維持発展のため、コアとなる集落営農組織の育成と横の連携を強化するとともに、チャレンジモデル実証による収益改善を図り、次世代につながる生産体制の強化、担い手育成による若い世代を巻き込んだ地域づくりを支援した。



集落営農活性化協議会 (6/12)



熊本県先進地視察 (10/23～25)

【背景・課題】

管内の集落営農組織は、担い手不足や収益の悪化等により年々組織が解散している。

このため、将来の集落営農について検討するとともに、新たなチャレンジモデルの構築及び役員後継者や新しいオペレーターの育成を図るなど、持続可能な組織体制づくりを支援することが重要となっている。

【普及指導活動の内容】

- ・ 集落営農組織間の連携を図るため、上北地域集落営農活性化協議会を開催し、組織間連携に向けた効率的な運営体制を検討した。
- ・ はれわたりの高品質米生産に向けた現地研修会や、稲WC Sを活用したTMRセンターの視察により耕畜連携の取組への理解を深めた。
- ・ 集落営農組織の収益性改善等に向け、高収益作物の導入など集落営農組織の新たなチャレンジに向けたモデル実証を支援した。
- ・ 新たなオペレーターを確保するため、農業用ドローンオペレーター育成講習会を開催した。

【成果】

- ・ 活性化協議会の組織から2名の参加を得て、集落営農の先進県である熊本県の3つの集落営農法人を調査し、将来の担い手確保対策や組織間の連携などについて、上北地域集落営農活性化協議会で報告した。
- ・ 水田を活用した高収益作物導入を実証するモデル実証組織を公募したところ、1組織がにんじんの栽培に取り組み、栽培方法の課題を把握した。
- ・ 2組織から推薦された4名の農業用ドローンオペレーターを新たに育成した。

（関連事業：次代に引き継ぐ上北地域集落営農活性化事業）

2 普及関連組織の活動状況

(1) 農業士会

上北地域の農業士会は、十和田地区、三沢地区、野辺地地区の3地区があり、いずれも地域における農業者のリーダーとしての資質向上と担い手の育成、会員相互の親睦を目的として設立され、研修会の開催、営農大学校生や新規就農者の研修受入等を行っている。

ア 十和田地区農業士会

(ア) 秋期研修会

令和6年10月30日に十和田市の十和田アグリ（株）ほ場及び高木正義氏宅で開催し、4名が参加した。

(イ) 冬期研修会

令和7年1月17日、十和田市で農業経営士認定期間満了者の高木正義氏と山田利昭氏からの講話を内容とする研修会を開催し、7名が参加した。

(ウ) 県連事業への参加

令和6年7月24日に八戸市で開催された県農林水産部長との意見交換会及び視察研修に2名が参加した。

(エ) 営農大学校生等の研修受入実績

a 営農大学校農家実習の研修受入

(a) 前期（令和6年6月5日～18日）の受入 会員及び受入人数

寺澤 和夫氏、小又 亮氏

甲田 秀行氏 各1名

(b) 後期（令和6年8月29日～9月11日）の 受入会員及び受入人数

天間 正大氏、竹ヶ原 直大氏 各1名

b 農業普及振興室職員の農家派遣研修受入

春期6月・秋期10月（延べ20日間）小田 正喜氏

c 上北地域いきいきヤングファーマーゼミナール 地域の先輩農業者研修受入

(a) 第1回（令和6年9月10日）小田 正喜氏、甲田 秀行氏

(b) 第2回（令和6年10月30日）高木 正義氏、竹ヶ原 直大氏



営農大学校生の実習風景(6/11)

イ 三沢地区農業士会

(ア) 現地検討会の開催

令和6年9月4日に野辺地地区農業士会と共催で、十和田市及び六戸町の優良事例を研修し、10名が参加した。

(イ) 冬期研修会

令和7年1月24日、三沢市内でユニバーサル農業についての研修会を開催し、26名が参加した。

(ウ) 県連事業への参加

- a 令和6年7月24日に八戸市で開催された県農林水産部長との意見交換会に1名が参加した。
- b 令和6年9月2日～3日に岩手県盛岡市他で開催された令和6年度東北・北海道地域農業士研究会に1名が参加した。

(エ) 営農大学校農家実習の研修受入実績

- a 前期（令和6年6月5日～18日）の受入会員及び受入人数
浦田 秀人氏 1名

ウ 野辺地地区農業士会

(ア) 合同研修会

令和6年9月4日、野辺地地区・三沢地区農業士会合同研修会を十和田市内グリーンソウルの加工施設、六戸町内の合板製造工場で開催し、17名が参加した。

(イ) 冬期研修会

令和7年2月12日、ほ場管理等ができる全農営農管理システム及びザルビオの研修会を開催し、21名が参加した。



合同研修会(9/4)

(ウ) 県連事業への参加

令和6年7月24日に八戸市で開催された県農林水産部長との意見交換会に2名が参加した。

(エ) 営農大学校農家実習の研修受入実績

- a 前期（令和6年6月5日～18日）の受入会員及び受入人数
乙部 英夫氏・暁氏 1名
- b 後期（令和6年8月29日～9月11日）の受入会員及び受入人数
石久保 勇人氏 1名

Ⅲ 普及指導活動の実績

(2) かみきたVIC・ウーマンの会

ア 農山漁村女性リーダー研修会及び活動交流会

(ア) 研修会

期 日	令和7年1月29日（水）
場所等	きざん三沢（三沢市） 26名参加
内 容	【農山漁村女性リーダースキルアップセミナー】 ○事例紹介「誰でも働きやすい作業環境を目指して」 青森県農業経営士 小田 正喜氏 ○事例紹介「六戸町における若手女性農業者交流会について」 青森県VIC・ウーマン 久田 早百合氏

(イ) 交流会

期 日	令和6年8月20日（火）
場所等	サードプレイスミサワ（三沢市） 13名参加
内 容	【かみきたVIC・ウーマンの会 活動交流会】 ○事例紹介 「サードプレイスミサワ」の取組について 株式会社池田介護研究所 代表取締役 池田 右文氏 ○事例紹介 「青森ユニバーサル農業」について 一般社団法人日々木の森 代表理事 立崎 文江氏 （青森県VIC・ウーマン：十和田市） ○情報交換 「労働力不足に関する我が家の工夫」

イ 地区別の地域活性化活動

新規VIC・ウーマンの掘り起こしと女性リーダーとしてのスキルアップを目的に、4地区で研修会や交流会を実施した。（令和6年9月～12月、延べ4回26名）



活動交流会 (8/20)



地区別の地域活性化活動 (12/2)

(3) かみきた農と暮らしの研究会

ア 視察研修

期 日	令和6年11月1日（金）
場所等	古民「風丸」（つがる市）他 14名参加
内 容	【県内の保存食や郷土料理に関する事例調査】 ○事例調査 「古民家「風丸」を拠点に「食」を軸とした取組」 ※つがる市の郷土料理「すしこ」の普及に関する取組事例 講師：合同会社津軽の暮らしラボ 代表社員 傳法谷 菜美保氏 ○事例調査 「地域の「食」の活用事例について」 ※深浦沖で水揚げされる未利用魚を有効活用するため、乾物・燻製・冷凍の技術により加工品を開発・販売している事例 紹介者：企業組合広福丸 理事 古川 淑子氏

イ 生活講座

期 日	令和7年1月15日（水）
場所等	みなづき食堂（六戸町） 21名参加
内 容	【講習会】 ○講 話 「里山で採れる山菜等の保存方法について」 講師：又兵衛の茶屋 山本 明美氏 ○情報交換 津軽の郷土料理「けずし」と上北地域の郷土料理「ごど」をアレンジした料理の試食



視察研修(11/1)



生活講座(1/15)

(4) とわだグリーン・ツーリズム研究会

ア 農作業体験の受入

今年度は、にんにくの収穫体験と乗馬体験の2つの体験プランと、長芋すいとんやなべこ団子など6つの出前講座について、体験受入PRちらしを作成し、公民館や直売所など管内18か所へ配布した。

イ レベルアップ研修

期 日	令和6年8月22日（木）
場 所 等	むつ市 会員8名参加 ブラウ ローカル ベジタブルズ ショップ (サンマモルワイナリー、PLOW Local Vegetables Shop、 パーク ダイ カン ヤ マ PARK DAIKANYAMA、ミルク工房ボンサーブ)
内 容	【先進地事例研修】 ○下北の冷涼な気候でのぶどう栽培やワイン工場等の取組について 対応者：(有)サンマモルワイナリー 支配人代理 春日 一心 氏 ○トレーラーハウスの活用と生産者及び女性起業者と連携した直売所の取組 ブラウ ローカル ベジタブルズ ショップ 対応者：PLOW Local Vegetables Shop 代表者 斉藤 とま江 氏 ○トレーラーハウスやドームテントを活用したグランピング施設「PARK DAIKANYAMA」 対応者：(株)むつ不動産取引センター 代表取締役社長 佐藤 雄太 氏 ○下北ジョパークの魅力や活動、ミルク工房ボンサーブ取組について 対応者：(有)斗南丘牧場 代表取締役社長／下北ジョパークガイドの会会長 原 英輔氏

ウ 活動検討会

期 日	令和7年3月7日（金）
内 容	・令和6年度の体験受入等の結果について ・令和7年度の活動計画について



サンマモルワイナリーの圃場見学(8/22)



トレーラーハウスを活用した直売所の見学(8/22)

(5) 農村青少年クラブ

ア 上十地区4Hクラブ連絡協議会

(ア) 会員の構成 東北町、六ヶ所村

(イ) 会員数 20名 (令和7年1月末現在)

(ウ) 主な活動

a 共同プロジェクト (1課題)

種子処理剤「特殊肥料ネバルくん」をながいもに使用した際の効果検討

b ながいも等寄贈 令和7年2月2日、児童養護施設あけぼの学園

児童養護施設あけぼの学園交流会

c ながいも販売研修

令和6年11月2日～3日、東北町いきいき産業文化まつり

令和6年12月8日、ふじさき食彩テラス

d 上北地域青年農業者プロジェクト合同発表会でのプロジェクト発表

令和7年2月19日、きざん三沢

(エ) 県連行事への参加 青年農業者会議

令和7年2月13日～14日

(オ) 会議等の開催 令和6年度総会、役員会2回、全体会2回、三役会2回



共同プロジェクトながいもの植付 (5/31)



ふじさき食彩テラスでの販売会 (12/8)

イ 三沢地区農村青少年クラブ連絡協議会

(ア) 会員の構成 三沢市、おいらせ町

(イ) 会員数 11名 (令和7年1月末現在)

(ウ) 主な活動

a 共同プロジェクト (1課題)

にんにくにおけるプラスチックを使わない被膜肥料が収量品質に及ぼす影響の検討

b 個人プロジェクト (1課題)

にんじんのフルボ酸資材の施用時期の違いによる収量品質への効果の検討

c 地域貢献活動

Ⅲ 普及指導活動の実績

ハロウィンかぼちゃ寄贈

(令和6年10月23日：いちい幼稚園・織笠児童館)

d 上北地域青年農業者プロジェクト合同発表会でのプロジェクト発表
令和7年2月19日、きざん三沢

e 機関紙「手」第55号の発刊
令和7年3月7日

f 総会の開催
令和7年3月11日（書面開催）

(エ) 会議等の開催

令和6年度総会（書面決議）、定例会7回、三役会1回



共同プロジェクト にんにく収量調査(9/4)



地域貢献活動 かぼちゃ磨き(10/15)

ウ 十和田七戸4Hクラブ

(ア) 会員の構成 十和田市、七戸町

(イ) 会員数 9名（令和7年1月末現在）

(ウ) 主な活動

地域貢献活動

装飾用かぼちゃ寄贈 令和6年10月31日、十和田市地域交流センターとわふる

(エ) 研修会への参加

ヤングファーマーゼミナール(延べ9名)

(オ) 会議等の開催

令和6年度総会、定例会2回、役員会
1回



装飾用かぼちゃ寄贈(10/31)

3 普及情報の発行・発信

(1) かみきた楽農通信

管内生産者及び関係機関に対し、上北地域における普及指導活動を情報発信するため、情報紙を発行した。

○発行回数 2回 発行部数 延べ523部

発行月日	主 な 内 容
令和6年 4月25日 (第64号)	・農業普及振興室長挨拶 ・新たな農業経営士、青年農業士の紹介 ・春の農作業安全運動展開 ・農薬の適正使用について ・職員紹介
令和7年 1月27日 (第65号)	・農業普及振興室長挨拶 ・田中稔賞の受賞（十和田アグリ） ・令和6年度における農業普及振興室の主な活動 ・重点計画の取組内容 ・新任職員の活動紹介

(2) 上北農業生産情報

水稻、畑作、野菜等について定期的に生育調査し、それに基づく今後の栽培管理について迅速に関係機関・農家等へ情報提供することを目的に、農業生産情報を発行した。

○発行回数7回（4月～10月）

(3) インターネットサイトによる情報提供

地域農林水産部農業普及振興室サイトに農業技術等の情報を掲載した。

○ホームページ更新回数（延べ） 38回

コーナー名	主 な 内 容	更新回数
上北の 農林水産業	上北の農林水産業	1回
農業関係情報	半旬別気象図、上北農業生産情報、情報誌「かみきた楽農通信」、小麦・大豆の生産情報、上北いきいきヤングファーマーゼミナール、上北地域における農福連携の取組、上北地域のグリーン・ツーリズム、普及指導活動のまとめ ほか	34回
お知らせ	「令和6年度上北地域集落営農チャレンジモデル実証」実施者募集ほか	3回

IV 令和6年度実施事業

1 農業普及振興室直営事業

(1) 持続可能な中部上北スタイル水田農業推進事業（県民局重点枠 R5～7）

※農村整備課予算

ア 事業目的

県南地方最大規模のほ場整備が実施されている小川原湖周辺の土場川地区において、軟弱地盤の克服やスマート農業の導入を図りながら、整備後のほ場への高収益作物の導入を進める。

イ 事業内容

(ア) 排水対策を講じた水田への野菜作付け実証

令和5年度は土場川地区内に、にんにく作付け実証ほ（七戸町、東北町各1か所）を設置し、現地検討会を開催した（6/6）。にんにくの生育は順調であった。

令和6年度はにんにく作付け実証ほ（七戸町：1か所）、たまねぎ作付け実証ほ（東北町：1か所）を設置し、たまねぎ直播実演会を開催した（9/19）。

(イ) スマート農業の導入等支援

水田農業におけるスマート農業や水田への高収益作物導入の取組の県内・県外の先進事例について調査を実施した。

また、中部上北地域水田農業推進研修会を開催し、農機メーカーによる先進技術の紹介があった。

日時・場所	人数	内容
7月22～23日 秋田県大潟村、 由利本荘市	4人	・水田での加工業務用たまねぎ栽培及びスマート農業への取組について
2月25日 東北町	19人	・営農支援システム「レポサク」について ・秋田県先進地視察における情報提供



秋田県由利本荘市での事例調査(7/23)



たまねぎ直播実演会(9/19)

（２）次代に引き継ぐ上北地域集落営農活性化事業（県民局重点枠 R5～6）

ア 事業目的

上北管内の集落営農組織を活性化し、地域の農業を守るため、コアとなる集落営農組織の育成と横の連携を強化し、収益性改善に向けたモデル構築及び次世代の担い手を育成する。

イ 事業内容

（ア）上北地域集落営農活性化協議会

a 管内組織のネットワーク形成

集落営農組織間の連携を図るため、上北地域集落営農活性化協議会を開催し、集落営農組織同士の意見交換を行った。（6/12、15人）

b 先進事例調査

集落営農法人の法人間連携が進められている熊本県の事例について、集落営農組織の代表者2名と合同で調査を行い、集落営農法人連合体の設立による連携の取組について知見を得た。（10/23～25）

c 上北地域集落営農活性化協議会研修会

はれわたりの高品質米生産に向けた現地研修会（8/28、17人）や、稲WC Sを活用したTMRセンターの視察（12/10、24人）により耕畜連携の取組への理解を深めた。

（イ）集落営農活性化に向けたチャレンジモデル実証

集落営農組織の収益性改善等に向け、高収益作物の導入など集落営農組織の新たなチャレンジに向けたモデル実証を支援した。

- ・（農）オ市田：にんじんの導入による収益向上

（ウ）次世代の担い手づくりの支援

新たなオペレーターの確保に向け、農業用ドローンオペレーター育成講習会を開催した。（10/7～11、4人）



上北地域集落営農活性化協議会 (6/12)



ドローンオペレーター育成講習会 (10/7～11)

(3) 農山漁村女性の経営参画推進普及事業（国庫 R6～）

ア 事業目的

農山漁村女性の経営参画による農業の経営力強化と地域の活性化

イ 事業内容

(ア) 女性の経営参画セミナーの開催

- ・期 日：令和7年1月29日
- ・場 所：きざん三沢（三沢市）
- ・内 容：農山漁村女性リーダースキルアップセミナー
労働力確保に向けた作業環境づくりに関する事例紹介等
- ・参加者：26名

(イ) 農山漁村女性活動担当者会議の開催

- ・日 程：令和6年5月23日～7月2日のうち8日
- ・方 法：管内各市町村及びJAを巡回
- ・内 容：農山漁村女性活動支援事業及びVIC・ウーマン候補者の情報共有
- ・出席者：17名

(ウ) VIC・ウーマン候補者の掘り起こし

農山漁村女性活動担当者会議における情報共有やVIC・ウーマンが主催した地域の交流会の実施等により、新たに2名を掘り起こすことができた。

(エ) 家族経営協定の推進

十和田市2戸、三沢市1戸、七戸町7戸、東北町3戸、おいらせ町2戸
(令和7年2月末現在)

（４）農山漁村女性起業課題解決・活躍促進事業（国庫 R5～7）

ア 事業目的

女性の視点を生かした起業活動を支援し、農山漁村女性の活躍を推進するとともに、次世代を担う女性起業家の育成と地域活動等の発展を図る。

イ 事業内容

（ア）女性起業の人材育成

a 女性起業講座 ～『彼岸だんご』づくりを学ぶ～開催

期 日：令和6年9月3日（火）

場 所：十和田市東コミュニティセンター 実習室

参加人数：14名

内 容：彼岸だんご（よもぎ）づくり （実習及び情報交換）

講師 相坂加工グループ 工藤 きよゑ氏、竹ヶ原 キワ氏



講師から彼岸団子の作り方を説明



あんこの包み方について実習指導

b 女性起業講座「見て、食べて、実感！冷凍野菜のノウハウを学ぶ」

期 日：令和7年1月21日（火）

場 所：（地独）青森県産業技術センター農産物加工研究所

参加人数：11名

内 容：講義「知る！役立つ！冷凍加工の基礎知識」

実習「冷凍野菜の加工技術とその活用方法」

講師 （地独）青森県産業技術センター農産物加工研究所

加工技術部長 相坂 直美氏、研究開発部 宮部 好克氏



冷凍加工の基礎知識に関する講義



冷凍野菜の加工実習

(イ) 起業活動支援（補助事業）

a 事業実施者 佐々木 和枝氏（三沢市）

(a) 計画名：食を通じて地域をつなげる場づくり～結カフェ～

(b) 内 容：活動拠点の整備、「ふれあい食堂の日」及び郷土料理体験交流会の開催

(c) 成 果：

- ・三沢市中心部に活動拠点である「ベジキッチンまいまい」を移転し、新たに設けた飲食及び交流スペースを活用して、子育て家族や高齢者を対象に「結カフェの日（＝ふれあい食堂の日）」を開催した。
- ・「結カフェの日」では、地域の高齢者や幼児を対象に、地域特産物のかぼちゃやごぼうを活用した特別メニューの提供や、地域の料理教室等の講師と連携して、子供でも簡単に作れて、家庭でも手軽に出来る料理の体験交流を実施した。
- ・体験交流の合間には、高齢の参加者から昔から地域に伝わる料理や家庭で食べられるかぼちゃ等のアレンジ料理について話があり、地域特産物への理解と参加者間の交流が深まった。



ベジキッチンまいまい（三沢市）



体験交流会の様子

b 事業実施者 工藤 孝子氏（加工場所在地 六戸町）

(a) 計画名：青森の田舎の味の継承とブランド化

(b) 内 容：加工場の整備、地域に伝わる郷土料理等の商品化、漬物製造量の拡大

(c) 成 果：

- ・空き家の改修により加工場を整備して、彼岸等の行事食や弁当の販売、漬物の製造、新たにネット販売への取組など加工事業の拡大に向けて取り組んだ。
- ・年中行事に食べられる彼岸団子や赤飯、惣菜類等のほか、野菜をメインとした弁当を試験的に販売した。
- ・漬物については、加工場の熟成室が広がったことで、製造量が拡大し、さらに新たな大根等の漬物にも取り組むことができた。
- ・消費者に加工品づくりへの思いを伝えるため、メッセージを込めたロゴマークやシール等を作成しながら、オリジナルブランドづくりに取り組んだ。



野菜をメインとしたお弁当



新たに取り組んだ漬物



彼岸団子

(5) 青森県ユニバーサル農業推進事業（国庫・県単 R6～8）

ア 事業目的

農福連携に取り組む機会創出や情報発信により農業者の理解を深めるとともに、ワンストップ窓口の機能強化に向けた人財の育成、消費者や高校生等の応援機運醸成に取り組む。

イ 事業内容

(ア) チャレンジ農福及び現地検討会の実施

福祉事業所による農作業ユニットと農業者をマッチングし、障がい者が農作業に従事する「チャレンジ農福」を農協等への委託により実施した。

(実施件数13件（うち林福1件）)

また、おいらせ町で現地検討会を開催し、6年前から農福連携を行っている立花 友彦氏より、取り組む姿勢や農業経営への効果について説明があり、農福連携に対する参加者の理解が深まった。(10/9、参加者47名)



説明する立花氏(10/9)

(イ) ノウフクマルシェの実施

道の駅しちのへ感謝祭に併せ、上十三圏域工賃向上支援協議会（事務局：おおばこ作業所）によりノウフクマルシェを実施した。管内15施設が農産物、加工品、手芸品等の出品に協力した。当日はキッチンカーを用い、障がい者及び福祉事業所職員がスタッフとして参加し、2日間の売り上げは約31万円となった。(10/26、27)



キッチンカーで販売(10/26、27)

(ウ) かみきたノウフク交流会の開催

農業者と福祉事業所をつなぐ場として、今年度新たに意見交換会及び交流会を開催した。双方が顔を合わせお互いを知ることによって、農福連携の課題の1つである「マッチング」の機会を作ることができた。

(11/29、参加者56名)



交流会の開催(11/29)

(エ) 上北地域農福連携推進連絡会議の開催

関係機関の連携を強化して今後の取組を円滑に進めるため、連絡会議を開催し、本年度の取組状況や今後の取組について情報共有を図った。(2/5、参加者16名)

(6) みんなが食育アクション事業（国庫・県単 R6～8）**ア 事業目的**

県民が健全な食生活を生涯にわたって実践していくため、あらゆる世代で食育活動を展開するとともに、食育活動を担う指導者の育成と、共食の場に対する支援を行う。

イ 事業内容**(ア) 食育活動実践プロジェクトの実施**

審査の結果、今年度は2団体に委託し実施した。

a おいらせ町食生活改善推進員会（おいらせ町）**○事業の目的**

地域児童が地元食材を活用した食育を通じて、食への関心を高め感謝の心を育む。

○事業内容

対象：甲洋小学校3年生（9/2）、4年生（9/5）

- ・食の大切さについて栄養士講話
- ・食改が教える大根調理 など

b エコレンジャーセブン（七戸町）**○事業の目的**

食品ロスの現状を知り、ワークショップを通して食品ロス削減への取組を推進する。また、郷土の味を学び、味わうことで地域の食文化を伝承する機会とする。

○事業内容**(a) 食品ロス削減教室の開催（10/5、10/14）**

- ・食品ロスの現状を知り、食材を無駄なく使う暮らしについて話し合った。
- ・廃棄量の多いおからを用いて味噌を作った。

(b) 調理教室の開催、レシピカードの配布

- ・郷土の味（なべっこ団子、豆しとぎ、じゅねもち）を調理し、味わった。（11/30、1/9）
- ・レシピカードを作成し、公民館等に配布した。（1/10～2/17）



切干大根の調理(9/5)



おから味噌づくり(10/14)

(イ) 上北地域食育ネットワーク協議会研修会の開催

主管課である食ブランド・流通推進課から、「青森県における食育の取組」として、県で実施している各世代や各組織に対応した食育活動に関する話題提供があった。

意見交換では、各関係機関から今年度の活動内容についての説明や質疑応答を行った。今後の食育活動に向け、多くの参考となる事例が紹介された。（12/10、参加者15名）



研修会の様子(12/10)

(7) 放射性物質モニタリング調査（県単 H24～R7）**ア 事業目的**

平成24年4月1日から、食品中の放射性物質の基準値（厚生労働省）が変わったことに対応し、管内主要農林産物の放射性物質モニタリング調査を実施し、その安全性を確認する。

イ 令和6年度実施結果（上北地域県民局地域農林水産部担当分）

今年度は玄米6点、ながいも5点、原木しいたけ1点、野生きのこ類1点で放射性物質モニタリング調査を行ったが、いずれも基準値を超える放射性セシウムは検出されなかった。

調査実績

分類	品目数	件数	品目名	検査結果	
				放射性セシウム 134 (Bq/kg)	放射性セシウム 137 (Bq/kg)
穀類	1	6	玄米	検出されず (<5.0)	検出されず (<5.0)
野菜	1	5	ながいも	検出されず (<5.0)	検出されず (<5.0)
林産物	2	2	原木しいたけ	検出されず (<5.0)	検出されず (<5.0)
			野生きのこ類	検出されず (<5.0)	検出されず (<5.0)
計	4	13			

(8) 青森県特別栽培農産物認証制度（県単 H11～）**ア 制度概要**

国の「特別栽培農産物に係る表示ガイドライン」、「青森県特別栽培農産物認証要綱」に基づき、農薬や化学肥料を使用しない、又は、通常の5割以下に減らして生産した農産物を「青森県特別栽培農産物」として認証している。

イ 認証実績（生産流通）

市町村名	品目	認証数 (件)	生産者 (人)	ほ場面積 (a)	認証 区分
十和田市	水稻、大豆、小豆	6	6	290	A : 3 E : 1 F : 2
七戸町	水稻、にんにく、アピオス	4	25	2,458	A : 1 F : 3
東北町	にんにく	1	1	20	F : 1
おいらせ町	えごま、アピオス	2	3	91	A : 2
合 計		13	35	2,859	A : 6 E : 1 F : 6

認証区分：**A** 農不・化不（農薬不使用・化学肥料不使用）
B 農不・化5（農薬不使用・化学肥料5割以下）
C 節農不・化不（節減対象農薬不使用・化学肥料不使用）
D 節農不・化5（節減対象農薬不使用・化学肥料5割以下）
E 節農5・化不（節減対象農薬5割以下・化学肥料不使用）
F 節農5・化5（節減対象農薬5割以下・化学肥料5割以下）

（９）新規就農者定着推進事業（県単 H28～R6）**ア 事業目的**

新規就農者や若手農業者を対象とした農業の基礎的な知識・技術に係る研修会や相談会の開催により、意欲ある多様な人財を農業の担い手として育成する。

イ 「上北地域いきいきヤングファーマーゼミナール」（資質向上支援活動）

期 日	研修名及び内容	講 師	参加人数
令和6年 6月6日 6月7日	営農基礎研修 (農薬の使用方法)	・ 農業普及振興室 中西技師 ・ 農業普及振興室 中島技師	2か所計 7名
6月13日 6月14日	営農基礎研修 (土づくり)	・ 農業普及振興室 葛西技師 ・ 農業普及振興室 中島技師	2か所計 4名
9月10日	上北地域の先輩農業者研修①	・ 青年農業士 甲田 秀行氏 ・ 農業経営士 小田 正喜氏	13名
10月30日	上北地域の先輩農業者研修②	・ 農業経営士 竹ヶ原 直大氏 ・ 農業経営士 高木 正義氏	6名
11月12日	農作業安全研修	・ 農研機構 農業機械研究部門 積 栄氏、梅野 覚氏	8名
12月2日	営農基礎研修（堆肥の基礎知識）・有機農業の概要	・ 農業普及振興室 伊藤総括主幹 小出技師	7名
12月24日 ～25日	農業経営研修 (複式簿記の基礎)	・ 農業普及振興室 若山技師 藤山技師	延べ6名
12月26日	農業経営研修 (パソコン複式簿記の基礎)	・ 農林水産部 農林水産政策課 片山主幹	3名
令和7年 1月6日 ～10日	農業経営相談会（個別相談）	・ 農業普及振興室 若山技師 原田主査	2名
1月20日 ～21日 2月6日 2月12日 3月3日 ～4日	農業経営研修 (パソコン複式簿記の実践)	・ 農林水産部 農林水産政策課 片山主幹	延べ17名

(10) あおもり新農業人サポート事業（県単 R4～6）**ア 青森県新規就農メンター制度****(ア) 事業目的**

優れた農業経営を実践している非農家出身の農業者をメンターに認定し、課題を抱える非農家出身の就農希望者等に派遣して実践的なアドバイスをすることで、早期の経営安定化を図る。

(イ) メンター認定者

認定者	市町村	経営品目	備考
佐藤 和文	七戸町	にんにく、にんにく加工	(令和6年度の派遣実績なし)
本間 雅也	七戸町	トマト、ミニトマト	
中村 巧	東北町	ハーブ、にんにく他	

イ 「青森農業経営塾」の開講**(ア) 事業目的**

経済のグローバル化やデジタル技術の進展などの環境変化に柔軟に対応し、果敢に挑戦していく経営マインドを持った本県農業の将来を担う新たなリーダーの育成に向けて、法人経営や輸出戦略、マーケティング戦略等、利益追求と経営力の強化を図る体系的なカリキュラムにより、農業経営に特化した「あおもり農業経営塾」を開講した。

(イ) 研修の年間スケジュール

期 日	内 容	備考
令和6年7月26日	開講式・ガイダンス、第1回セミナー等	(令和6年度の応募実績なし)
8月19日	第2回セミナー 内容：理念・ビジョン策定	
8月29日	県内視察研修 内容：寅福（むつ市）を視察	
9月13日	第3回セミナー 内容：経営資源の把握	
11月25日	第4回セミナー 内容：マーケティング	
12月6日	第5回セミナー 内容：ビジネスモデル・商品企画	
12月20日	第6回セミナー 内容：財務管理・経営計画	
令和7年1月16日 1月20日	個別面談	
1月30日	県外視察研修	
2月7日	経営計画発表会、閉講式	

(11) あおもり型農村RMO育成事業（県単 R6～8）

持続可能で活力ある農山漁村をつくるため、農泊の取組や地域の食を活用した活動などを地域づくりに生かしながら、地域経営体を中心とした稼ぐ力のある「あおもり型農村RMO」の育成に向けた取組を推進する。

ア 地域マネジメント活性化事業

地域担い手協議会等が行う農村RMOの育成を目指すための取組や地域課題の解決活動を支援する。

事業主体	主な事業内容	補助金額（円）
十和田市地域農業再生協議会	・農業の担い手育成に関する意見交換 ・農村RMOの事例の共有と推進に関する意見交換	299,000
横浜町地域農業再生協議会	・地域経営体（道の駅よこはま）の販売力向上に関する取組と意見交換 ・県外における産直施設の販売研修	1,694,340
合 計		1,993,340

注）令和6年12月末時点の見込額

イ 農村RMOスタートアップ事業

地域経営体等が行うあおもり型農村RMOに資する取組を支援する。

事業主体	主な事業内容	補助金額（円）
ひまわり工房 （十和田市）	・提供するメニュー内容を充実させるための講座の実施及び資材の購入	492,790
小田 正喜 （十和田市）	・農作業用機械の導入による作業の効率化 ・地域の若手農業者との交流会の実施	940,369
合 計		1,433,159

注）令和6年12月末時点の見込額

ウ 農村RMOモデル集落内活動母体支援事業

モデル集落内における活動母体であるむらづくり協議会等の運営活動に係る取組を支援する。

事業主体	主な事業内容	補助金額（円）
一本松集落むらづくり会議準備委員会（十和田市）	令和3年度に一本松集落で策定した地域の農林業の持続的な振興と集落のコミュニティ機能の維持・創出を目指した「むらづくりビジョン」の実現のため、継続的な活動ができる組織体制づくりを検討する。	209,234
合 計		209,234

注）令和6年12月末時点の見込額

エ 中間支援組織による伴走支援

モデル集落である一本松集落（十和田市）の取組に対して、地域づくり活動に精通している中間支援組織の伴走支援を委託する。

委託先	主な取組内容
NPO法人ひろ だいらサーチ （十和田市）	・むらづくりビジョンの推進 ・集落内の田畑の維持管理
（株）and more （三沢市）	交流人口の拡大を目指したイベントの開催支援

(12) 指定種子検査事業（県単 H30～）**ア 水稻**

(ア) 事業主体 十和田市水稻採種組合

(イ) 事業実施内容

a ほ場審査結果

第1期（出穂期）：8月2日

第2期（糊熟期）：9月3日

【品種別ほ場指定面積】

(単位：a、筆)

品種名	指定面積	指定ほ場数	合格面積	合格ほ場数
まっしぐら(原種)	100	4	100	4
まっしぐら	7,987	269	7,919	268
ゆたかまる	2,311	67	2,311	67
えみゆたか	301	8	301	8
あさゆき	141	3	141	3
計	10,840	351	10,772	350

合格率は99.4%。

「種子伝染性の病害虫」により68aが不合格となった。

b 生産物審査結果

【生産物審査数量及び発芽試験結果】

(単位：点数、%、kg)

品種名	審査サンプル数	合格サンプル数	不合格サンプル数	平均発芽率	種子生産数量
まっしぐら(原種)	1	1	0	99	7,300
まっしぐら	50	50	0	99	426,000
ゆたかまる	15	15	0	99	133,000
えみゆたか	2	2	0	99	17,060
あさゆき	1	1	0	94	7,000
計	69	69	0	98	590,360

合格率は100%。発芽は良好であった。

イ 大豆

(ア) 事業主体 農事組合法人 赤沼営農組合

(イ) 事業実施内容

a ほ場審査結果

第1期（開花期）：8月7日

第2期（成熟期）：10月18日、21日、24日、30日、31日、11月5日、11日

【品種別ほ場指定面積】

(単位：a、筆)

品種名	指定面積	指定ほ場数	合格面積	合格ほ場数
おおすず	2,191	81	1,782	66(一部合格も含む)

合格率は81.1%。

青立ち、雑草、倒伏により409aが不合格となった。

b 生産物審査結果

【生産物審査数量及び発芽試験結果】 (単位：点数、%、kg)

品種名	審査サンプル数	合格サンプル数	不合格サンプル数	平均発芽率	種子生産数量
おおすず	21	21	0	99	18,330

合格率は100%。発芽は良好であった。

ウ 小麦

(ア) 事業主体 農事組合法人 赤沼営農組合

(イ) 事業実施内容

a ほ場審査結果

第1期(出穂期)：5月28日 第2期(糊熟期)：6月18日、24日

【品種別ほ場指定面積】 (単位：a、筆)

品種名	指定面積	指定ほ場数	合格面積	合格ほ場数
ネバリゴシ	1,010	43	1,001	43(一部合格も含む)

合格率は99.1%。

雑草、登熟ムラにより9aが不合格となった。

b 生産物審査結果

【生産物審査数量及び発芽試験結果】 (単位：点数、%、kg)

品種名	審査サンプル数	合格サンプル数	不合格サンプル数	平均発芽率	種子生産数量
ネバリゴシ	32	32	0	95	24,000

合格率は100%。発芽は良好であった。

2 補助金・交付金事業

(1) 青森県農林水産関連物価高騰等対策事業（県単 第4次採択）

ア 事業目的

新型コロナウイルス感染症の影響の長期化や原油をはじめとしたエネルギー・原材料価格の高騰などに対応し、経営の継続・発展に取り組む農林水産事業者を支援する。

※ 令和5年度予算を明許繰越し、令和6年度に事業実施

イ 補助率 県1/2以内（補助上限額：10,000千円）

ウ 事業内容 スマート農業機械導入支援タイプ

ロボット技術や情報通信技術（ICT）の活用を中心とした、低コスト・省力化に取り組むために必要な農業機械等の導入を支援

（単位：件、千円）

件数	事業費(税抜)	補助金額	主な補助対象機械
9	73,080	36,540	自動操舵システム、直進アシストトラクター、食味・収量センサー付きコンバインなど

(2) 青森県物価高騰対応「スマート農業機械」導入促進事業（県単R6）

ア 事業目的

長引く物価高騰に対応し、本県に適した農業DXを実現していくことで、経営の継続・発展に取り組む農業者を支援する。

イ 補助率 県1/2以内（補助上限額：12,500千円）

ウ 事業内容

(ア) 補助対象

ロボット技術や情報通信技術（ICT）等を活用し、生産性向上、低コスト・省力化に取り組むために必要な農業機械等

(イ) 実績

（単位：件、千円）

件数	事業費(税抜)	補助金額	主な補助対象機械
66	826,240	411,720	自動操舵機能付きトラクター・ロータリー、自動操舵機能付きハイクリブームスプレーヤー、収量センサー付きコンバイン、自動操舵システム、マルチローター 等

注) 令和7年2月末現在の見込

(3) 青森県野菜等産地力強化支援事業（県単 H30～R6）**ア 事業目的**

野菜等産地の所得向上と産地力の強化を図るため、省力化等に必要な施設・機械、施設園芸の振興に必要な耐雪型ハウスの導入を支援する。（県補助率：1/4以内）

イ 事業内容

市町村名	事業実施 主体	対象作物	事業内容	事業量 (台)	事業費(税込) (千円)	補助金額 (千円)
三沢市	認定農業者	ごぼう	ホイルトレンチャー	1	2,420	550
	認定農業者	ながいも	乗用管理機	1	1,122	255
	認定農業者	にんにく	畝立て マルチロータリー	1	840	191
	認定農業者	にんにく	植付機	1	2,050	465
三沢市計				4	6,432	1,461
東北町	認定農業者	だいこん	洗浄機	1	1,166	265
東北町計				1	1,166	265
おいらせ町	認定農業者	だいこん	収穫機	1	6,710	1,525
	認定農業者	にんにく	マルチサブソイラー	1	550	125
	認定農業者	にんじん	収穫機	1	3,800	863
	認定農業者	にんじん、 だいこん	乗用管理機	1	2,310	525
	認定農業者	キャベツ	ブームスプレヤー	1	2,860	650
	認定農業者	だいこん	収穫機	1	1,320	300
	認定農業者	にんじん	カルチロータリー	1	580	131
	認定農業者	にんじん、 だいこん	スタブマルチ	1	1,170	265
おいらせ町計				8	19,300	4,384
六ヶ所村	法人	だいこん	収穫機	1	9,000	2,045
	法人	ながいも、 ごぼう、 だいこん	マニュアルレクタ	1	1,700	386
	認定農業者	ごぼう	収穫機	1	3,245	737
六ヶ所村計				3	13,945	3,168
合計				16	40,843	9,278

注) 令和7年2月末現在の見込（千円以下切り捨てで記入）

事業費及びその他の額は、千円以下の端数により合計額と一致しない場合がある。

（４）環境保全型農業直接支払交付金（国庫 R2～6）

地球温暖化防止や生物多様性保全に積極的に貢献していくため、環境保全に効果の高い営農活動を普及推進する。

ア 環境保全型農業直接支払交付金（定額）

自然環境の保全に資する農業の生産方式を導入した農業生産活動の実施に取り組む農業者団体に対し、取組面積に応じて交付金を交付する。

<取組状況>

市町村	対象となる営農活動	件数	面積(a)	事業費(円)	備考
十和田市	有機農業	3	1,399	1,678,800	国1/2以内 県1/4以内 市町村1/4 以内
三沢市	カバークロップ、 有機農業	2	2,415	1,516,200	
七戸町	カバークロップ、 有機農業	2	3,599	1,319,100	
六戸町	カバークロップ、 有機農業	1	239	202,800	
おいらせ町	カバークロップ、 有機農業	1	2,144	2,187,000	
計		9	9,796	6,903,900	

イ 環境保全型農業直接支払推進交付金（定額）

市町村が実施する確認事務などに係る経費に対して交付する。

（令和6年度は実施なし）

(5) 農業委員会交付金等（国庫 S60～）**ア 事業目的**

農地利用の最適化等を推進するため、農業委員会が活動する経費について農業委員会交付金等を交付する。

イ 事業内容**(ア) 交付金の区分****a 農業委員会交付金（S60～）**

農業委員会職員給与、農業委員等の月例報酬に係る経費

b 農地利用最適化交付金（H28～）

最適化活動を行う推進委員等の報酬に係る経費、農業委員会が行う最適化活動に必要な物品購入等に係る経費

c 機構集積支援事業費補助金（H26～）

農業委員会の必須業務に必要な物品購入等に係る経費

農業委員等の資質向上に係る研修会等旅費、参考図書等購入に係る経費

(イ) 事業費・交付金額

(単位：千円)

事業実施 主体	事業 区分	事業費	うち交付 金等	事業実施 主体	事業 区分	事業費	うち交付 金等
十和田市 農業委員会	a	56,014	6,665	横浜町 農業委員会	a	14,020	1,503
	b	7,434	7,434		b	4,245	1,565
	c	538	437		c	1,652	1,106
三沢市 農業委員会	a	7,884	2,371	東北町 農業委員会	a	23,025	3,316
	b	2,876	2,025		b	259	203
	c	2,588	1,474		c	168	96
野辺地町 農業委員会	a	2,516	1,194	六ヶ所村 農業委員会	a	4,116	2,546
	b	1,149	1,149		b	1,565	1,565
	c	116	107		c	—	—
七戸町 農業委員会	a	26,236	3,914	おいらせ町 農業委員会	a	18,333	2,375
	b	1,254	1,249		b	2,009	1,343
	c	1,034	732		c	429	421
六戸町 農業委員会	a	6,003	2,608	計	a	158,147	26,492
	b	8,680	5,222		b	29,471	21,755
	c	138	129		c	6,663	4,502

注) 事業費、交付金等は令和7年2月末現在の実績見込額、—は未実施。

(6) 新規就農者育成総合対策事業（国庫 R4～8）**ア 事業目的**

農業への人材の一層の呼び込みと定着を図ることを目的に、経営発展のための機械・施設等の導入を支援するとともに、経営が不安定な就農直後の所得を確保するための資金を交付する。

イ 事業内容**(ア) 経営発展支援事業**

機械・施設、家畜の導入、果樹・茶改植、リース料等に要する経費を支援

- ・対象者：認定新規就農者（就農時49歳以下）
- ・支援額：補助対象事業費の3/4を補助（補助対象事業費上限1,000万円）

※経営開始資金と併用の場合は補助対象事業費上限500万円

（単位：円）

交付主体	経営発展支援事業 (補助金額)	経営発展支援事業 推進事業費	計	交 付 対 象
十和田市	1,731,000	－	1,731,000	1人
おいらせ町	7,010,000	－	7,010,000	1人
計	8,741,000	－	8,741,000	2人

(イ) 経営開始資金

経営リスクを負っている新規就農者の経営が軌道に乗るまでの間を支援

- ・対象者：認定新規就農者（就農時49歳以下）
- ・支援額：年間最大150万円、最長3年間交付

（単位：円）

交付主体	経営開始資金	経営開始資金推進 事業費	計	交 付 対 象
十和田市	7,500,000	84,000	7,584,000	5人
三沢市	3,000,000	－	3,000,000	2人
野辺地町	1,500,000	－	1,500,000	1人
七戸町	3,750,000	－	3,750,000	3人
横浜町	1,500,000	－	1,500,000	1人
東北町	2,250,000	31,800	2,281,000	2人
計	19,500,000	115,800	19,615,800	14人

(ウ) 農業次世代人材投資事業（経営開始型）※継続分のみ

経営リスクを負っている新規就農者の経営が軌道に乗るまでの間を支援

・対象者：認定新規就農者（就農時49歳以下）

・支援額：年間最大150万円、最長5年間交付（単位：円）

交付主体	農業次世代人材投資事業（経営開始型）	農業次世代人材投資事業（経営開始型）推進事業費	計	交付対象
十和田市	7,350,000	0	7,350,000	7人
東北町	2,250,000	0	2,250,000	2人
計	9,600,000	0	9,600,000	9人

注）事業費、補助金は令和7年2月末現在の実績見込額

（7）地域計画策定推進緊急対策事業（国庫 R5～6）

ア 事業目的

農業者等による協議（話し合い）を踏まえ、地域の農業の在り方や農地利用の姿を明確化した地域計画の策定に必要な取組を支援し、担い手への農地集積・集約化を図るために要する経費を交付する。

イ 補助率

定額

ウ 事業内容

（単位：円）

事業実施主体	事業費	補助金額
六戸町	540,615	540,615
合計	540,615	540,615

注）事業費、補助金額は見込額

（８）青森県経営所得安定対策等推進事業（国庫 H27～）**ア 事業目的**

経営所得安定対策を推進するため、市町村が行う推進活動に要する経費及び地域再生協議会が行う推進活動に要する経費について市町村が補助するのに要する経費を助成する。

イ 補助率 国10／10以内**ウ 事業内容****（ア）補助対象**

謝金、旅費、賃金及び共済費等、事務等経費、委託費、助成費

（イ）実績 (単位：千円)

実施主体名	事業費	補助金額	実施主体名	事業費	補助金額
十和田市	19,195	14,936	横浜町	2,508	2,508
三沢市	5,635	4,357	東北町	5,200	5,200
野辺地町	3,016	2,678	おいらせ町	5,418	4,350
七戸町	4,858	4,858	六ヶ所村	500	500
六戸町	2,064	1,855	合 計	48,394	41,242

注) 令和7年2月末現在の見込

(9) 鳥獣被害防止総合対策交付金（国庫 R6）**ア 事業目的**

市町村鳥獣被害防止計画に基づき、被害防止対策の総合的かつ計画的な取組を実施することにより、鳥獣による農作物被害の軽減を図る。

イ 事業内容

(単位：円)

事業実施主体	事業内容	事業費	補助金額
七戸町鳥獣被害対策協議会	推進事業 ・有害捕獲 ・被害防除	1,498,000	1,498,000
東北町鳥獣被害対策協議会		1,514,000	1,514,000

注) 令和6年12月末現在の見込

(10) 青森県県外人材雇用受入環境整備支援事業（県単 R6）**ア 事業目的**

県は、農業分野における県外人材の受入拡大により、労働力の安定確保を図るため、農業者等が県外人材の居住環境の整備ために行う改修等に要する経費について補助金を交付する。

イ 補助率 県1/3以内（補助上限額：1,500千円）

ウ 補助対象経費

居住スペース、トイレ、浴室（シャワー室）、空調設備、Wi-Fi設備 ほか

(単位：件、千円)

事業実施主体	件数	事業費(税抜)	補助金額	事業内容
認定農業者	3	13,020	3,336	間仕切り変更、トイレ・浴室の整備、エアコン・FF式ストーブ・Wi-Fi設備設置

注) 令和7年1月末時点の見込額

(11) 青森県GAP認証取得推進事業（国庫 R6）**ア 事業目的**

大阪・関西万博へのGAP認証農産物の安定供給及び地域におけるGAPの普及拡大を図るため、県のGAP推進方針に合致し、大阪・関西万博にGAP認証農産物を供給する意向のある農業者が、新規にGAP認証を取得するのに要する経費について、同事業者に対し補助金を交付する。

イ 事業内容

(ア) 補助対象

GAP認証審査、研修指導の受講、認証取得に係る環境整備

(イ) 事業費・交付金額

(単位：円)

事業実施主体者名	事業費	補助金額
道地農事研究会	1,222,100	1,111,000
株式会社甲田ファー夢	192,280	130,000
合計	1,414,380	1,241,000

3 その他の事業

(1) 青森ブランド野菜所得向上対策事業（ながいも所得対策）（県単R6～8）

ア 事業目的

「あおもりながいも産地力強化戦略」後期行動計画に基づき、ながいも出荷量日本一に向け、品種特性を維持するための種苗増殖方法の改善や新品種の早期導入のほか、省力栽培体系のシステム化と担い手の確保、育成に取り組む。

イ 事業内容（農業普及振興室が関わった部分）

(ア) 種苗増殖方法改善実証ほ

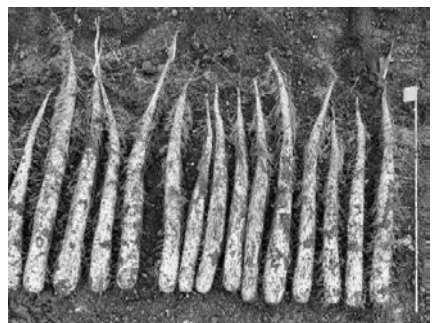
農協が生産者に供給する種苗の増殖方法の改善を図るため、管内のJAおいらせ（三沢市）、JAゆうき青森（東北町）の2か所に実証ほを委託し、野菜研究所からの成いもを100g前後の切りもにして、さらに、キュアリング処理等を行い植え付け、その後、簡易網室を設置して、むかごの着生状況及び成いもの収量を把握した。



種苗増殖実証ほ簡易網室
設置 三沢市(7/19)

(イ) 新品種栽培技術試験展示ほ

野菜研究所が育成した新品種「夢雪」について、新品種に合わせた栽培技術を組み立てるため、管内のJA十和田おいらせ（七戸町）、JAおいらせ（三沢市）、JAゆうき青森（東北町）の3か所に実証ほを委託し、従来の「園試系6」及び新品種における現地慣行である株間（21～24cm）と、狭い株間の18cmを比較し、各地への新品種の特長や収穫量を把握した。



新品種栽培技術試験展示ほのながいも
「夢雪」18cm 東北町(11/22)

(ウ) 地域の担い手の確保・育成

a ながいもプロフェッショナル養成所研修の開催

農協と連携してながいも担い手育成塾生に対して「ながいもプロフェッショナル養成所研修」へ参加を呼びかけ、担い手農家のレベルアップにつなげた。

b 生産技術チェックシートを活用した指導

生産技術チェックシートを活用した個別巡回指導により、担い手農家の技術改善につなげた。

（２）青森ブランド野菜所得向上対策事業（にんにく所得対策）（県単R6～8）**ア 事業目的**

青森にんにくのトップブランドの地位を将来にわたって堅持するため、労働力不足への対応やさらなる高品質安定生産に向けた取組を推進する。

イ 事業実績（農業普及振興室が関わった部分）**（ア）にんにく新品種「青森福雪」の早期導入に向けた取組**

令和4年度に品種登録された「青森福雪」への円滑な品種の移行及び普及・定着を図るためにJA十和田おいらせ、JAゆうき青森及びJAおいらせに現地実証ほを設置し、生育・収量調査や栽培管理等の運営支援に協力した。各地域での品種特性や地域適応性を確認し、普及推進協議会に結果報告した。なお、令和7年産においては実証ほの3ほ場のほか、新たに試作ほを6ほ場設置した。

（イ）生産者段階の優良種苗増殖技術の重点指導

「青森県にんにく優良種苗生産・供給指導指針」に基づき、生産者用に作成したリーフレット「にんにくの種苗増殖のポイント」や「乾燥チェックシート」等を活用しながら講習会や巡回指導を実施した。管内3農協で41回、延べ約900名の生産者に対し、イモグサレセンチュウやウイルス媒介虫の適正防除と併せて種苗増殖専用ほ場の重要性を指導した。

野菜研究所の指導支援を得ながら、管内の原種・採種ほ場や主要な生育観測ほ場における有翅アブラムシ類のモニタリングを実施した。採種ほ等の栽培管理者には随時情報提供しながら防除時期を指導した。また、講習会等ではウイルス再感染防止等に向けた病害虫の適期防除に活用した（春期4～6月、秋期萌芽後10～11月）。

（ウ）イモグサレセンチュウ被害防止技術の確立

講習会等において、線虫の生態、識別方法、防除対策を説明した結果、早期発見・初動防除の重要性が理解され、汚染が疑われる場合の検鏡診断を生産者及びJA営農指導員に呼びかけた。また、JA営農指導員並びに若手普及指導員を対象に、イモグサレセンチュウ診断技術研修会を7月下旬と8月下旬の2回開催し、本線虫の識別方法を習得させた。その後の診断結果を各農協と情報共有しながら、優良種苗の確保や今後の防除対策の指導に活用した。（7/29～30、8/20～22、受講者10名）

（エ）スチールコンテナ利用等による新たな乾燥技術の情報収集

“空っ風君”を導入した生産者の稼働状況を視察し、設置条件などの情報を取りまとめ、今後導入を希望する生産者に対し、運用の利点欠点を説明した。また、昼夜の温度管理を逆転させたシート乾燥の温度経過を測定させながら温度管理を実践指導した結果、乾燥期間の短縮を図ることができた。

V 気象経過と農作物の生育状況

1 気象経過の概要と半旬別気象図

(1) 気象経過の概要

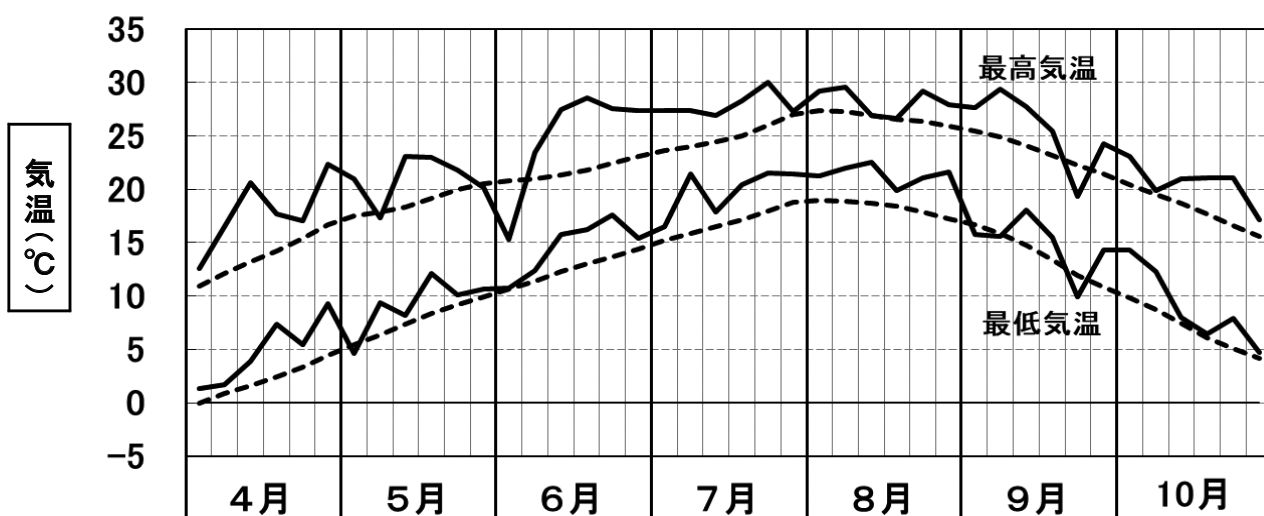
(青森地方気象台の資料に拠る)

月	概 要
4月	- 平均気温は、期間をとおして平年を上回り、月平均気温は十和田市で11.2℃（平年差+3.2℃）、三沢市で11.2℃（平年差+2.8℃）と平年を上回った。 - 日照時間は第4、第5半旬を除き平年を上回り、月合計時間は平年を上回った。 - 降水量は第2半旬を除き平年を下回り、月合計降水量は平年を下回った。
5月	- 平均気温は、期間をとおして平年を上回り、月平均気温は十和田市で15.5℃（平年差+2.2℃）、三沢市で15.5℃（平年差+2.4℃）と平年を上回った。 - 日照時間は、第2、第6半旬を除き平年を上回り、月合計時間は平年を上回った。 - 降水量は、第6半旬を除き平年を下回り、月合計降水量は平年を下回った。
6月	- 平均気温は、第1半旬を除き平年を上回り、月平均気温は十和田市で19.4℃（平年比+2.6℃）、三沢市で18.8℃（平年比+2.5℃）と平年を上回った。 - 日照時間は、第1、第5半旬を除き平年並または平年を上回り、月合計時間は平年を上回った。 - 降水量は、十和田市は第3、第4半旬を除き平年を上回り、三沢市は第1半旬を除き平年並または平年を下回り、月合計降水量は十和田市は平年並、三沢市は平年を下回った。 - 東北北部の梅雨入りは平年より8日遅い6月23日だった。
7月	- 平均気温は、期間をとおして平年を上回り、月平均気温は十和田市で23.8℃（平年差+3.2℃）、三沢市で23.9℃（平年差+3.6℃）と平年を上回った。 - 日照時間は、第2、第6半旬を除き平年を上回り、月合計時間は平年を上回った。 - 降水量は、十和田市は第2、第6半旬を除き平年を下回り、三沢市は第2半旬を除き平年を下回り、月合計降水量は十和田市は平年並、三沢市は平年を下回った。
8月	- 平均気温は、期間をとおして平年を上回り、月平均気温は十和田市で24.3℃（平年差+2.2℃）、三沢市で24.5℃（平年差+2.2℃）と平年を上回った。 - 日照時間は、十和田市は第1、第2半旬を除き平年を下回り、三沢市は第1半旬を除き平年並または平年を下回り、月合計時間は平年を下回った。 - 降水量は、第1、第2及び第5半旬を除き平年並または平年を上回り、月合計降水量は十和田市は平年を上回り、三沢市は平年を下回った。 - 東北北部の梅雨明けは平年より5日遅い8月2日だった。
9月	- 平均気温は、第5半旬を除き平年を上回り、月平均気温は十和田市で20.2℃（平年差+1.7℃）、三沢市で20.8℃（平年差+1.6℃）と平年を上回った。 - 日照時間は、第3、第4及び第5半旬を除き平年を上回り、月合計時間は平年を上回った。 - 降水量は、第1、第5半旬を除き平年を下回り、月合計降水量は平年を下回った。
10月	- 平均気温は、期間をとおして平年を上回り、月平均気温は十和田市で14.7℃（平年差+2.3℃）、三沢市で15.3℃（平年差+2.0℃）と平年を上回った。 - 日照時間は、第2半旬を除き平年並または平年を上回り、月合計時間は平年を上回った。 - 降水量は、十和田市は第1、第3半旬を除き平年を下回り、三沢市は第1、第5半旬を除き平年を下回り、月合計降水量は十和田市は平年並、三沢市は平年を下回った。

(2) 半旬別気象図① <十和田アメダス>

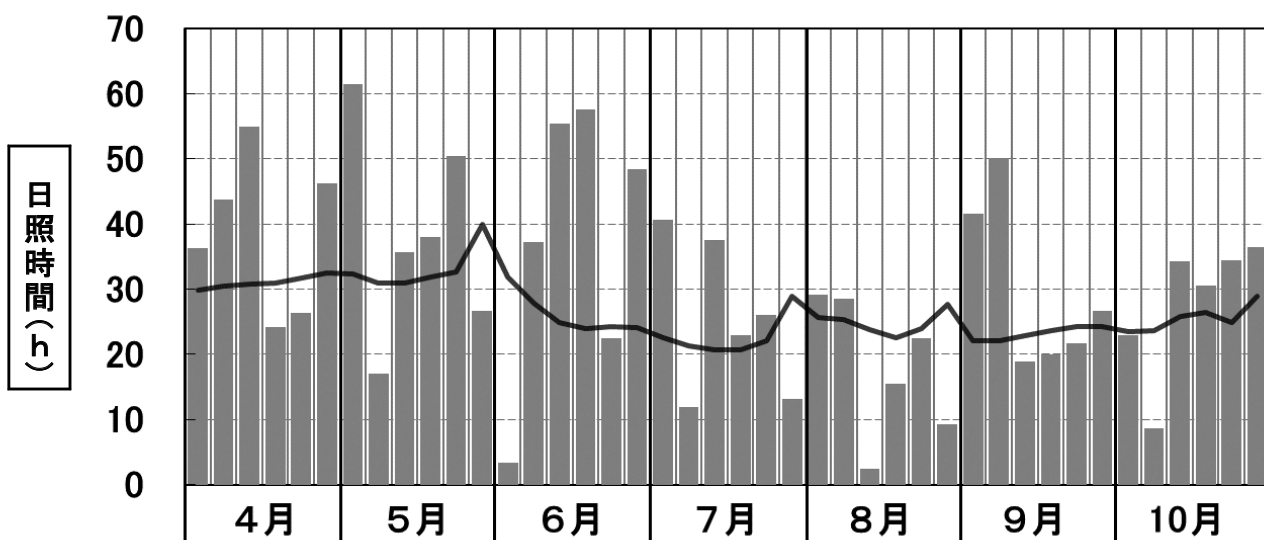
ア 気温 (半旬平均)

(本年 — 平年 - - - -)



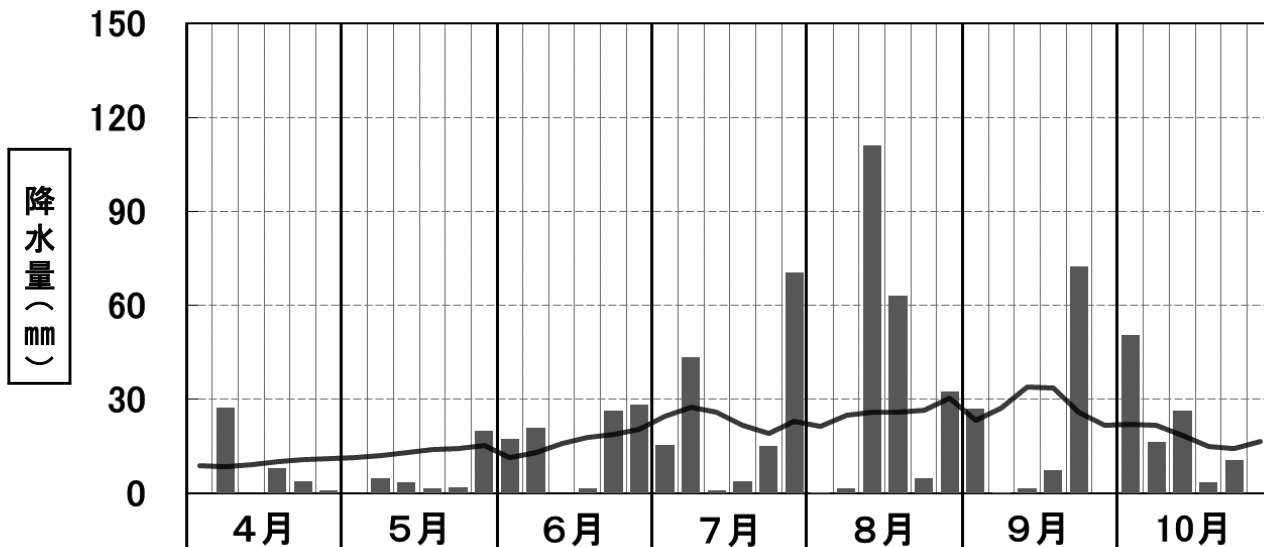
イ 日照時間 (半旬合計)

(本年 ■ 平年 —)



ウ 降水量 (半旬合計)

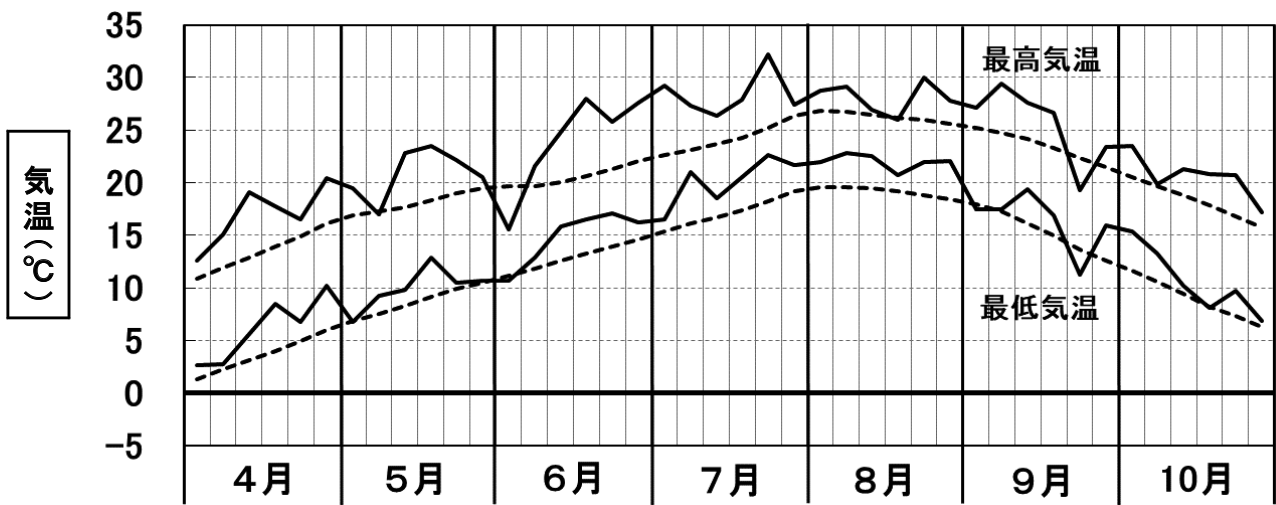
(本年 ■ 平年 —)



(3) 半旬別気象図② <三沢アメダス>

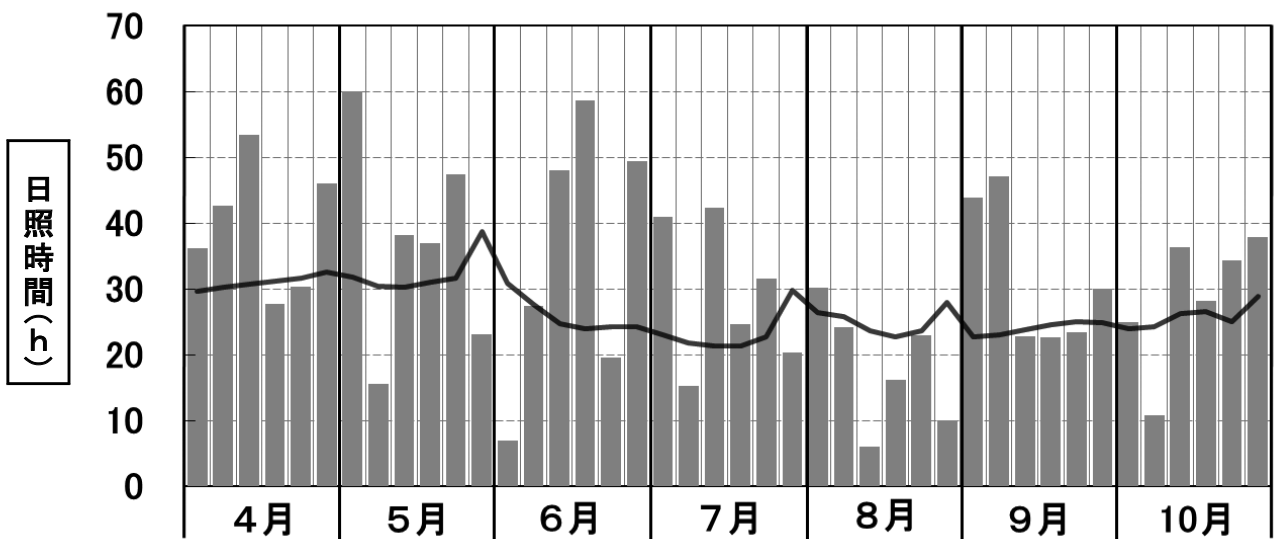
ア 気温 (半旬平均)

(本年 — 平年 - - - -)



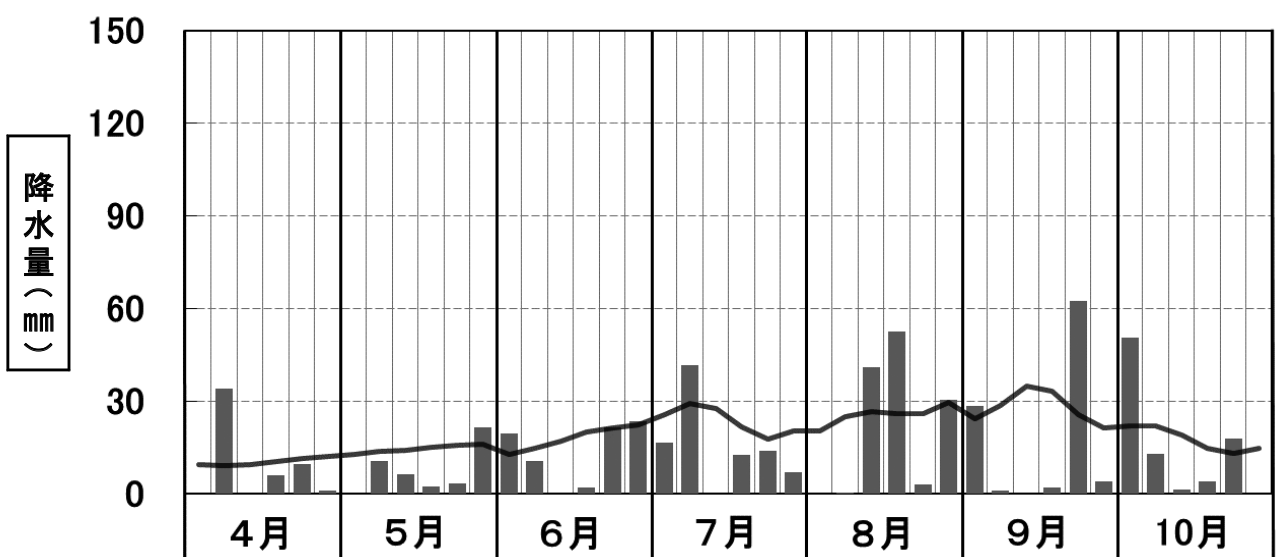
イ 日照時間 (半旬合計)

(本年 ■ 平年 —)



ウ 降水量 (半旬合計)

(本年 ■ 平年 —)



2 水稲

(1) 育苗期～田植期

- ・出芽、育苗時の生育は概ね順調であった。
- ・上北管内の田植最盛期は平年より3日早い5月18日であった。田植後の5月第6～6月第1半旬に低温で代枯れ等がみられたが、天候の回復とともに生育も回復した。表層剥離やアオミドロの発生がみられたが、生育への影響は少なかった。

表-1 管内田植進捗状況

作付面積 (ha)	田植え (月/日)			最盛期比較	
	始め	最盛期	終わり	平年差	前年差
7,102	5/12	5/18	5/26	早3日	早2日

※「始め」は5%、「最盛期」は50%、「終わり」は95%が作業進捗した日

(2) 活着期～出穂期

- ・6月第2半旬以降高温多照で推移し、生育は旺盛となった。管内の「まっしぐら」県生育観測ほにおける6月20日現在の生育は、草丈が45.9cm（平年比108%）、茎数は283本/m²（同127%）、葉数が7.8枚（平年差+0.5枚）であった。
- ・7月に入っても気温、日照時間は平年を上回って推移し、7月15日現在の生育は、草丈が76.7cm（平年比117%）、茎数は412本/m²（同99%）、葉数が11.4枚（平年差+0.8枚）であった。また、幼穂形成期は平年より7日早い7月5日、出穂期は平年より9日早い7月26日であった。さらに、上北管内の出穂最盛期は平年より8日早い7月28日であった。

表-2 県生育観測ほの生育状況（6月20日～出穂期）

品 種	年次	6月20日				6月30日			
		草丈 (cm)	茎数 (本/株)	葉数 (枚)	m ² 茎数 (本)	草丈 (cm)	茎数 (本/株)	葉数 (枚)	m ² 茎数 (本)
まっしぐら	本年	45.9	13.8	7.8	283	58.4	21.8	9.8	448
	平年	42.4	10.7	7.3	222	50.0	17.6	8.8	365

品 種	年次	7月15日				幼 穂 形 成 期 (月/日)	出穂期 (月/日)
		草丈 (cm)	茎数 (本/株)	葉数 (枚)	m ² 茎数 (本)		
まっしぐら	本年	76.7	20.2	11.4	412	7/ 5	7/26
	平年	65.3	20.3	10.6	418	7/12	8/ 4

※本年値は管内4地点の平均値。平年値はH17～R5年の平均値

表-3 管内出穂状況

出穂 (月/日)			最盛期比較	
始め	最盛期	終わり	平年差	前年差
7/27	7/28	8/ 2	早8日	早3日

※「始め」は5%、「最盛期」は50%、「終わり」は95%が出穂した日

(3) 登熟期～成熟期

- ・登熟期間中は8月第3～第4半旬に降水量が平年より多かったものの最高気温は平年を上回っていたことから、登熟は順調に進んだ。刈取り時期は前年同様大幅に早まり、刈取最盛期は平年より10日早い9月26日であった。
- ・成熟期の稈長は80.8cm（平年比107%）で平年より長く、穂長は18.8cm（同104%）でやや長く、穂数は391本/㎡（同109%）で多かった。1穂粒数は94.6粒（同110%）でかなり多く、㎡粒数も37,300粒（同122%）でかなり多かった。登熟歩合は73.7%で平年を12.3ポイント下回った。

表-4 管内稲刈進捗状況

刈取り（月/日）			最盛期比較	
始め	最盛期	終わり	平年差	前年差
9/13	9/26	10/13	早10日	遅1日

※「始め」は5%、「最盛期」は50%、「終わり」は95%が作業進捗した日

表-5 県生育観測ほの生育状況（成熟期）

品 種	年次	稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本/株)	㎡穂数 (本)	1穂 粒数 (粒)	㎡粒数 (×100粒)	登熟 歩合 (%)
まっしぐら	本年	80.8	18.8	19.1	391	94.6	373	73.7
	平年	75.3	18.1	17.4	358	85.6	305	86.0

※本年値は管内4地点の平均値。平年値はH17～R5年の平均値

(4) 病害虫発生状況

- ・一部ほ場で葉いもちの発生があり、穂いもちに移行したほ場がみられたが、管内のいもち病の発生は平年より少なかった。
- ・紋枯れ病の発生が増加傾向にある。
- ・7月から8月が高温であったことから、斑点米カメムシ類の発生量が多かった。

(5) 収量・品質

ア 県生育観測ほの収量・品質

- ・収量は10a当たり637kg（平年比104%）で、玄米千粒重は23.2g（同100%）であった。
- ・カメムシ類による斑点米の発生がみられたが、検査等級は管内4か所とも1等であった。

表-6 県生育観測ほの収量等

品 種	年次	全 重 (kg/10a)	わら重 (kg/10a)	精粒重 (kg/10a)	玄米重 (kg/10a)	屑米重 (kg/10a)	千粒重 (g)
まっしぐら	本年	1,671	690	896	637	65	23.2
	平年	1,548	695	802	613	36	23.1

※本年値は管内4地点の平均値。平年値はH17～R5年の平均値

V 気象経過と農作物の生育状況

イ 作柄概況

- ・東北農政局が公表した、「南部・下北地帯」の10a当たり収穫量（1.70mmふるいベース）は598kgで、地域別作況指数では「106」の「良」、全県では「103」の「やや良」だった。

表-7 作柄表示地帯別収穫量

項目 地帯	10 a 当たり収穫量(kg)			作況指数		
	R6	R5	R4	R6	R5	R4
青森県	623	614	594	103	102	99
青森地帯	604	599	593	103	102	101
津軽地帯	637	635	606	103	102	97
南部・下北地帯	598	569	564	106	102	101

※10a当たり収穫量は1.70mmふるいベース

※東北農政局 12月10日公表

ウ 検査状況

- ・管内J A取扱のうるち玄米の1等米比率は92.8%であった。
- ・本年の落等の要因は、斑点米カメムシ類による「着色粒」、玄米の皮が厚い、溝が深いといった「整粒不足」が挙げられている。

表-8 検査状況（うるち玄米）

項目 地域	1等米比率（%）				
	R6年産米	R5年産米	R4年産米	R3年産米	R2年産米
県全体	93.7	68.2	92.2	91.7	92.2
上北管内	92.8	55.0	95.6	93.6	90.6

※東北農政局 令和7年1月31日公表（令和6年12月31日現在の速報値）。

※上北管内は管内J Aからの聞取りによる推定値（12月末現在）

3 畑作物

(1) 小麦（ネバリゴシ）

ア 生育状況

(ア) は種期～開花期

- ・は種作業は9月26日頃から始まり、出芽は良好であった。越冬前の草丈、葉数は平年を上回り、茎数は平年を下回った。
- ・県生育観測ほの幼穂形成期は平年より2日遅い4月1日で、草丈は平年を上回り、茎数は平年を下回った。
- ・出穂期は平年より7日早く、開花期は8日早かった。

(イ) 登熟期～成熟期

- ・県生育観測ほの成熟期は平年より7日早い6月28日であった。成熟期の生育は、稈長・穂長ともに平年より長く、 m^2 当たり穂数は平年より少なかった。
- ・小麦の生育が平年より早まり、小麦の刈取りは平年より早い6月26日から始まった。穂発芽の発生はみられなかった。

(ウ) 病虫害発生状況

- ・越冬後の雪腐病の発生は平年より少なかった。
- ・うどんこ病は少程度発生していたが、生育への影響はみられなかった。

表-1 県生育観測ほの生育状況（十和田市相坂）

年次	は種期 (月/日)	幼穂 形成期 (月/日)	出穂期 (月/日)	開花期 (月/日)	成熟期 (月/日)	成熟期の生育			
						稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本/ m^2)	1穂粒数 (粒/本)
本年	10/ 7	4/ 1	5/12	5/19	6/28	84.6	8.5	589	43.1
平年	9/28	3/30	5/19	5/27	7/ 5	83.5	7.9	675	36.9
前年	10/ 6	3/23	5/16	5/24	7/ 2	84.4	8.7	894	46.4

※平年は、H23～R 5年の平均値

イ 収量・品質等

県生育観測ほの収量は、子実重、千粒重、容積重は平年を上回った。検査等級は1等であった。

表-2 県生育観測ほの収量等（十和田市相坂）

年次	子実重 (kg/10a)	千粒重 (g)	容積重 (g/L)
本年	640	36.1	848
平年	499	33.4	822
前年	578	34.8	803

※平年は、H23～R 5年の平均値

(2) 大豆（おおすず）

ア 生育状況

(ア) は種期～開花期

- ・は種作業は5月下旬から始まったが、5月末からの降雨により作業に遅れがみられ、最盛期は6月10日頃となった。出芽は良好であった。
- ・開花期までの気温は高く、順調に生育した。県生育観測ほの開花期は平年より8日早い7月27日で、草丈は平年を上回った。

(イ) 登熟期～成熟期

- ・期間を通して平年より気温が高く、乾燥気味に経過した。生育が旺盛で倒伏が発生するほ場が散見された。
- ・9月10日の調査では、県生育観測ほの草丈は123.1cmで平年より長く、葉数は平年より多かった。成熟期は平年よりやや遅い10月14日であった。
- ・管内の刈取作業は水稻やそば等の他作物の作業と競合したため、刈取最盛期は平年より6日遅い11月8日、刈取終は平年より4日遅い11月20日であった。

(ウ) 病虫害発生状況

- ・紫斑病の発生は少なく、べと病の発生は少程度であった。
- ・マメシンクイガの発生は平年並で、カメムシによる被害が平年より多かった。

表-3 県生育観測ほの生育ステージ（十和田市下切田）

年次	は種期 (月/日)	開花期 (月/日)	成熟期 (月/日)	7月10日		8月10日		9月10日	
				草丈 (cm)	葉数 (枚/本)	草丈 (cm)	葉数 (枚/本)	草丈 (cm)	葉数 (枚/本)
本年	6/ 9	7/27	10/14	54.6	7.3	121.3	15.4	123.1	15.4
平年	6/ 7	8/ 4	10/12	46.6	6.5	109.1	14.5	112.6	14.6
前年	6/ 5	7/27	10/ 6	53.2	7.0	124.6	14.1	128.7	14.1

※平年は、R 3～5年の平均値

イ 収量・品質等

県生育観測ほの収量は10a当たり平年より113kg少ない215kg（平年比66%）だった。分枝数は平年より少なく、稔実莢数は平年よりやや多かった。百粒重は平年より軽かった。

表-4 県生育観測ほの収量等（十和田市下切田）

年次	子実重 (kg/10a)	百粒重 (g)	分枝数 (本/本)	稔実莢数 (個/本)
本年	215	34.5	4.0	44.0
平年	328	36.6	5.4	42.2
前年	328	32.3	4.8	38.9

※平年は、R 3～5年の平均値

4 野菜

(1) ながいも

- ・一般農家の植付作業は、4月末頃から始まった。植付けの最盛期は、春掘りの遅れから、やや遅れて進み、JAゆうき青森管内では5月20日頃で、JA十和田おいらせ管内では5月26日頃、JAおいらせ管内では5月31日頃であった。上北管内全体の植付終了は、例年並みの6月15日頃だった。
- ・生育観測ほの植付けは、5月11日で、平年より3日遅かった。5月中旬の気温が平年より高く、好天で経過したことから、萌芽期は5月29日と早かった。
- ・生育観測ほの新しいものの生育は、適度に降雨もあり、さらに昨年に引き続き高温で推移したことから7月10日から9月10日までいも長、いも重、いも径とも平年を大幅に上回って推移した。10月10日時点でもいも径が平年並だったものの、いも長、いも重は平年を大幅に上回った。
- ・一般農家のほ場でも、適度な降雨と高温により概ね順調に推移した。高温が続いたことから、収穫量は地域、品種等によりばらつきがあるもの、平年並からやや上回った。今年もいもが細長い傾向がみられ、収穫作業では、センター掘機で掘取り時の「折れ」が多く発生した。
- ・生育観測ほにおける収穫時の調査では、いも重は平年並だったものの、いも長が非常に長く、いも径は細く細長いいもとなった。全重は、平年並で、品質はAB品率が87.6%と平年をやや下回った。
- ・病害は、8月上旬から葉渋病、炭疽病の発生が広くみられた。害虫ではナガイモコガやコガネムシ類の食害葉がみられ、9月以降、ナガイモコガの食害が目立つほ場が散見された。

表-1 生育観測ほの生育状況（東北町滝沢平）

年次	植付期 (月/日)	萌芽 揃期 (月/日)	つるの ネット頂 到達日	7月10日			8月10日		
				全 長 (cm)	全 重 (g)	いも径 (mm)	全 長 (cm)	全 重 (g)	いも径 (mm)
本年	5/11	5/29	6/29	18.4	11.8	11.8	57.8	577.5	49.6
平年	5/ 8	6/ 5	7/ 9	13.4	7.0	8.2	42.8	236.0	38.2
前年	5/ 5	6/ 1	—	15.6	6.2	8.6	45.0	202.0	36.6

年次	9月10日			10月10日			収穫期 (月日)
	全 長 (cm)	全 重 (g)	いも径 (mm)	全 長 (cm)	全 重 (g)	いも径 (mm)	
本年	86.1	1,113	56.9	94.1	1,337	58.4	11/13
平年	64.6	812	53.4	84.9	1,134	58.5	11/19
前年	78.8	814	47.7	71.3	760	50.4	11/21

※平年は、H26～R 5年の平均値

V 気象経過と農作物の生育状況

表-2 生育観測ほの収量等（東北町滝沢平）

年次	全 長 (cm)	いも長 (cm)	全 重 (g)	いも径 (mm)	総収量 (kg/10a)	A品率 (%)
本年	90.4	70.3	1,106	46.9	4,160	87.6
平年	73.5	53.3	1,151	57.6	4,133	94.0
前年	82.9	60.1	1,053	50.7	3,811	85.3

(2) にんにく

- ・生育観測ほの植付日は平年より18日遅い10月17日であった。一般ほ場の植付作業は例年並の9月26日頃から始まり、10月10日頃を最盛期に10月下旬で終了した。雪解けが早く、気温は平年より高く経過したため、越冬後の生育量は順調で、管内のりん片分化期は平年並の4月15～17日に確認された。5月の生育は旺盛で平年を上回ったが、6月上旬の地上部の生育量は平年を下回り、りん球の肥大は平年並であった。収穫期は枯れ上がりが早く6月20日となった。乾燥収量及び球重は平年並であったが、春腐病がみられ、品質では球割れや着色球が目立ち、A品率は平年を下回った。
- ・一般ほ場においては、天候に恵まれ、地上部の生育は平年を上回る状況であった。収穫作業は6月15日頃から始まり、最盛期は6月22日頃で、6月30日頃に終了した。収穫後の天候は概ね好天に恵まれ、乾燥作業は7月中旬頃に終了した。りん球の肥大にはほ場間差があるものの、収量は概ね平年並、2L規格品が平年より少ない状況ではあるが、2L+L規格の割合は83.8%と高かった。なお、A品率は54%に留まり、主な落等原因は着色、球割れ、突出片であった。

表-3 生育観測ほの生育状況（七戸町榎林）

年次	植付期 (月/日)	4月10日			りん片 分化期 (月/日)	5月10日		
		草丈 (cm)	生数 (枚)	茎径 (mm)		草丈 (cm)	生数 (枚)	茎径 (mm)
本年	10/17	31.1	4.8	—	4/17	75.3	8.4	17.8
平年	9/29	31.2	4.4	14.4	4/18	70.8	7.6	20.4
前年	9/29	33.7	4.9	11.8	4/15	66.2	7.6	18.1

※平年はH26～R 5年の10か年の平均値

表-4 生育観測ほの生育状況・収量（七戸町榎林）

年次	6月10日					収穫期 (月/日)	乾 燥 収 量 (kg/10a)	2 L + L 率 (%)	A品率 (%)
	草丈 (cm)	生数 (枚)	茎径 (mm)	球径 (mm)	球 重 (g)				
本年	78.7	8.1	16.4	60.3	88.7	6/20	1,038	83.8	54.0
平年	82.4	7.5	20.4	60.7	91.1	6/22	1,015	78.6	73.1
前年	75.7	6.9	16.4	54.6	85.0	6/26	768	20.4	33.7

※平年はH26～R 5年の10か年の平均値

(3) ねぎ

- ・生育観測ほの定植期は4月2日で、平年より11日早かった。2粒まきから3粒まきに変更したことや6～8月の乾燥の影響によって生育は草丈、茎径いずれも平年を下回って推移した。収穫期は平年より1日早い8月20日で、収量は平年をやや上回った(平年比103%)。
- ・一般農家の定植は例年より数日早い3月下旬から始まった。6～8月の乾燥の影響で、一部ほ場において葉先枯れ症状やさび病がみられた。また、軟腐病の多発生ほ場が一部にみられたほか、アザミウマ類やネギハモグリバエによる被害がみられた。

表-5 生育観測ほの生育状況(十和田市洞内)

年次	は種期 (月日)	定植期 (月日)	6月10日		7月10日		8月10日	
			草丈 (cm)	茎径 (mm)	草丈 (cm)	茎径 (mm)	草丈 (cm)	茎径 (mm)
本年	1/23	4/ 2	48.1	9.3	72.1	16.4	91.0	22.7
平年	1/27	4/13	52.6	10.5	89.6	21.5	106.3	26.8
前年	1/20	4/ 1	43.2	9.0	87.5	20.7	96.0	25.6

※平年は、R 2～5年の平均値

※本年は3粒まきのため参考値。

表-6 生育観測ほの収量等(十和田市洞内)

年次	収穫期 (月日)	全 長 (cm)	調製茎径 (mm)	軟白長 (cm)	調製1本重 (g)	収 量 (kg/10a)
本年	8/20	98.1	23.6	28.8	167.6	4,161
平年	8/21	99.9	21.5	26.7	198.5	4,047
前年	8/19	95.2	21.7	25.0	209.9	3,941

(4) ごぼう

- ・生育観測ほのは種期は平年より15日遅い5月16日であった。発芽は良好だったが、は種期が大幅に遅れたことから6月は双葉が確認できる程度であった。その後の生育は順調に推移し、7月には葉数が平年並となり、9月には草丈が平年を上回るほど回復した。収穫期は平年より11日遅い10月9日で、収量は10a当たり2,788kgと平年を下回り、また、品質は曲がりが見られたことから、A品率は72%で平年をやや下回った。
- ・一般ほ場では8月の多雨により茎葉の病害が多発生し、また、9月の肥大期に降水量が少ないことで、葉の光合成による養分転流が十分でなかったためか、全体としては品質は良好だが、例年に比べてやや細かった。

V 気象経過と農作物の生育状況

表-7 生育観測ほの生育状況（三沢市猫又）

年次	は種期 (月日)	6月10日		7月10日		8月10日		9月10日	
		草丈 (cm)	葉数 (枚)	草丈 (cm)	葉数 (枚)	草丈 (cm)	葉数 (枚)	草丈 (cm)	葉数 (枚)
本年	5/16	-	-	28.1	4.0	106.2	3.4	106.3	3.1
平年	5/ 1	10.7	1.9	68.2	3.9	116.5	2.9	96.6	3.4
前年	4/28	14.9	2.7	91.8	4.6	127.7	3.7	96.0	4.9

※平年は、H26～R 5 の平均値。

表-8 生育観測ほの収量等（三沢市猫又）

年次	収穫期						
	収穫期 (月日)	根長 (cm)	根径 (mm)	調製根重 (g)	収量 (kg/10a)	A品 (%)	B品 (%)
本年	10/ 9	91.6	17.9	187.8	2,788	72	20
平年	9/28	83.6	20.5	202.9	3,023	76	21
前年	10/17	88.7	23.2	232.3	3,520	87	13

(5) 春夏にんじん

- ・生育観測ほのは種期は、3月26日で平年より13日遅かった。3月の降雪の影響から、本年度はべた掛け栽培となった。4～6月は高温少雨で平均気温が高く、乾燥気味であったが、生育は概ね順調に推移した。
- ・収穫期は平年より10日遅い7月1日で、収量は10a当たり5,170kgで平年並であった。規格はL、Mが中心で、品質はA品率が平年よりかなり高かった。
- ・一般農家のトンネル栽培のは種作業は、例年より10日遅い3月23日から始まり、最盛期は3月26日頃であった。べた掛け栽培のは種作業は、3月30日から始まり最盛期は4月8日、終わりは4月20日頃であった。
- ・その後の生育は順調に経過し、収穫始めは例年並の6月第4半旬で、品質は概ね良好であった。病虫害及び抽台株、裂根、しみ症等の発生は少なかった。

表-9 生育観測ほの生育状況（六戸町下吉田：べた掛け栽培）

年次	は種期 (月/日)	5月10日		6月10日				
		葉長 (cm)	葉数 (枚)	葉長 (cm)	葉数 (枚)	根長 (cm)	根径 (cm)	根重 (g)
本年	3/26	12.4	3.6	40.3	7.5	21.1	2.9	53.0
平年	3/13	21.1	5.3	60.3	8.6	18.0	3.9	105.2
前年	3/15	19.0	5.6	57.7	8.5	23.2	4.0	116.0

※平年は、H26～R 5 年の平均値

表-10 生育観測ほの収量等（六戸町下吉田：べた掛け栽培）

年次	収穫期 (月日)	根長 (cm)	根径 (cm)	根重 (g)	収量 (kg/10a)	品質・規格別割合 (%)						
						A品	B品	3L	2L	L	M	S
本年	7/ 1	17.0	4.6	149.2	5,170	95	0	0	8	42	42	2
平年	6/21	16.9	4.7	164.0	5,167	85	6	2	21	41	24	3
前年	6/19	16.8	4.5	166.9	5,563	100	0	8	47	21	17	5

※平年は、H26～R 5年の平均値

(6) ばれいしょ

- ・生育観測ほの植付期は平年より6日早い3月25日、萌芽期は平年より2日遅い5月3日であった。その後の生育は順調で、着蕾期は平年より1日、開花期は平年より5日早かった。枯凋期は7月11日で平年より5日早かった。
- ・総いも数は10a当たり35,714個で平年より少なく、販売重は10a当たり3,659kgで平年より軽かった。規格割合は平年同様L、M中心だったが、2Lの割合が平年よりやや高く、品質はそうか病が一部散見されたが、概ね良好であった。
- ・一般農家のマルチ栽培の植付作業は、例年よりも7日程度遅い3月24日から始まり、最盛期は3月29日であった。収穫は6月第5半旬から始まり、2L・Lの割合が例年より大幅に高かった。
- ・病虫害は、疫病の発生はほとんど認められず、7月からアブラムシ類の発生がみられた。

表-11 生育観測ほの生育状況（三沢市庭構、マルチ栽培）

年次	植付期 (月日)	萌芽期 (月日)	着蕾期 (月日)	開花期 (月日)	枯凋期 (月日)	5月10日		6月10日	
						草丈 (cm)	茎数 (本)	草丈 (cm)	茎数 (本)
本年	3/25	5/ 3	5/22	5/31	7/11	18.2	2.1	55.0	2.2
平年	3/31	5/ 1	5/23	6/ 5	7/16	12.3	2.4	66.5	2.2
前年	3/25	4/24	5/19	6/ 3	7/16	11.3	2.1	56.0	2.0

※平年は、H26～R 5年の平均値

表-12 生育観測ほの収量等（三沢市庭構、マルチ栽培）

年次	総いも数 (個/10a)	販売重 (kg/10a)	規格別割合 (%)					
			3L	2L	L	M	S	外
本年	35,714	3,659	4	21	41	23	6	5
平年	43,257	4,029	5	16	33	29	9	8
前年	51,071	4,619	2	14	38	33	7	6

※平年は、H26～R 5年の平均値

(7) 春だいこん

- ・生育観測ほの種期は、降雪の影響により平年より9日遅い3月28日となった。生育は、は種後の気温がやや低く推移したため平年より遅れ、5月10日の生育は、葉長が30.9cmで平年より短く、根重が282.6gで平年より軽かった。収穫は5月27日と平年より1日遅く、根長は36.5cmで平年よりやや長く、根重は1,107gでやや軽く、収量は10a当たり7,151kgで平年より軽かった。規格は2L、Lが中心で、品質はA品が81%となった。B品は19%と平年よりも多く、高温障害によるものであった。
- ・一般農家のトンネル栽培のは種作業は、降雪の影響で例年よりも2週間程度遅い、3月23日頃から始まり3月末頃で終了した。トンネル栽培の収穫は例年並の5月19日から始まった。品質はやや細いものがあるほか、高温障害によるこぶや、乾燥年に発生しやすいゴミムシによる食害も一部でみられた。

表-13 生育観測ほの生育状況（おいらせ町内山平：トンネル・マルチ栽培）

年次	は種期 (月/日)	4月10日		5月10日		
		葉長 (cm)	葉数 (枚)	葉長 (cm)	葉数 (枚)	根重 (g)
本年	3/28	—	—	30.9	18.0	282.6
平年	3/19	7.9	2.4	35.2	21.3	303.0
前年	3/16	3.1	3.1	36.0	20.3	396.0

※平年は、H26～R5年の平均値

表-14 生育観測ほの収量等（おいらせ町内山平：トンネル・マルチ栽培）

年次	収穫期 (月/日)	根長 (cm)	根径 (cm)	根重 (g)	収量 (kg/10a)	品質・規格別割合(%)				
						A品	B品	2L	L	M
本年	5/27	36.5	7.7	1,107	7,151	81	19	40	40	17
平年	5/26	35.3	7.8	1,154	7,733	88	10	38	40	13
前年	5/22	32.6	7.9	1,069	7,425	100	0	11	85	4

※平年は、H26～R5年の平均値

(8) 秋冬だいこん

- ・生育観測ほのは種期は平年より2日遅い8月8日で、発芽状況は良好であった。
- ・収穫時期は平年より6日早い10月7日で、地上部は平年並～下回り、地下部は根径が平年並だったが、根長及び根重は平年を上回った。
- ・収量は10a当たり8,527kgだったが、ほ場が赤土で粘り気が強かったことから、尻部の曲がり又は潰れにより全てB品となった。
- ・一般ほ場では、キスジノミハムシ、一部で白さび病の発生がみられた。

表-15 生育観測ほの生育状況・収量等（東北町乙部）

年次	は種期 (月/日)	9月10日			収 穫 期						
		葉長 (cm)	葉数 (枚)	根重 (g)	収穫期 (月/日)	葉長 (cm)	葉数 (枚)	根長 (cm)	根径 (cm)	根重 (g)	収量 (kg/10a)
本年	8/ 8	27.8	12.5	42.7	10/ 7	45.2	20.4	38.9	6.9	1,159	8,527
平年	8/ 6	28.9	13.6	58.3	10/13	46.2	22.0	33.6	7.1	1,031	7,955
前年	8/ 8	33.7	14.4	85.8	10/10	47.9	22.9	37.4	7.5	1,107	8,112

※平年は、H26～R 5年の平均値

※R 4年から担当農家を変更したため、平年値は参考

5 花き

- ・管内ではカーネーション、クジャクソウ、アスター等が栽培されているが、今年の生育は順調だった。

6 果樹

(1) りんご

- ・「ふじ」の発芽日は、平年に比べ1日早く、生育ステージの早かった前年に比べ11日遅かった。落花日は平年より10日早く、前年より1日早かった。
- ・また、11月1日の果実肥大は、8.7cmと平年並であった。

表-1 生育ステージ調査（品種：ふじ、十和田市米田）

場所\項目		発芽日	展葉日	開花日	満開日	落花日
十和田市（本年）		4/ 6	4/14	4/29	5/ 4	5/ 6
十和田市（平年）		4/ 7	4/17	5/ 7	5/11	5/16
十和田市（前年）		3/26	4/ 6	4/28	5/ 1	5/ 7
五戸	県南果樹部(本年)	4/ 5	4/14	4/28	5/ 2	5/10
	県南果樹部(前年)	3/23	4/ 4	4/25	5/ 1	5/ 7
	県南果樹部(平年)	4/ 7	4/19	5/ 9	5/13	5/19
黒石	りんご研(本年)	4/ 5	4/11	4/27	5/ 2	5/10

※十和田市の平年値はH19～R 5年の17年間の平均

（地独）りんご研究所の平年値はH13～R 2年（20年間）

表-2 果実肥大調査（品種：ふじ、横径、十和田市米田）

（単位：cm）

場所\月日		6月1日	7月1日	8月1日	9月1日	10月1日	11月1日
十和田市（本年）		2.3	4.8	6.7	7.7	8.5	8.7
十和田市（前年）		2.2	4.7	6.5	7.9	8.5	8.8
十和田市（平年）		1.8	4.3	6.3	7.6	8.4	8.8
五戸	県南果樹部(本年)	2.4	4.7	6.9	8.2	8.7	8.8
	県南果樹部(前年)	2.3	4.8	6.8	8.2	8.9	9.2
	県南果樹部(平年)	1.3	3.9	6.0	7.6	8.5	8.9
黒石	りんご研(本年)	2.5	4.5	6.6	7.8	8.5	8.9

※十和田市の平年値はH29～R 5年の7年間の平均

（地独）りんご研究所の平年値はH13～R 2年（20年間）

7 飼料作物

(1) 牧草

- ・生育観測ほの消雪日は3月26日で平年より3日遅かった。
- ・4月から5月上旬にかけて平年よりも降水量が少なかったが、平均気温、日照時間が多かったことから、一番草の乾物収量は10a当たり378kgで平年並であった。
- ・6月から7月上旬にかけて平均気温が平年を上回り、降水量も平年並であったことから、二番草の乾物収量は10a当たり245kgで平年を上回った。
- ・8月は平年以上に高温が続き、日照時間が平年を下回ったことが影響して三番草の乾物収量は10a当たり154kgで平年を下回った。
- ・生育観測ほの年間乾物収量は10a当たり777kgで平年並であった。

表-1 十和田市（米田）生育観測ほ（オーチャードグラス）

年次	消雪日 (月/日)	一番草		二番草		三番草		年間 乾物収量 (kg/10a)
		刈取日 (月/日)	乾物収量 (kg/10a)	刈取日 (月/日)	乾物収量 (kg/10a)	刈取日 (月/日)	乾物収量 (kg/10a)	
本年	3/26	5/17	378	7/16	245	9/11	154	777
平年	3/23	5/23	371	7/18	212	9/16	185	768
平年比	3日遅	6日早	102%	2日早	116%	5日早	83%	101%

※平年値：H26～R 5年の10年間の平均値

(2) 飼料用とうもろこし（スノーデント110日）

- ・生育観測ほのは種日は平年より5日遅い5月24日、出芽は平年より6日遅い6月2日であった。7月の平均気温が高く日照時間も多かったため生育が良く、刈取り日は平年より12日早い9月10日であった。
- ・収量調査の結果、稈長は平年並であったが、乾物収量は10a当たり1,918kg、TDN収量は10a当たり1,311kgと大幅な増収となった。

表-2 東北町（北栄）生育観測ほ（品種：スノーデント110日）

年次	は種日 (月/日)	出芽期 (月/日)	絹糸 抽出期 (月/日)	刈取日 (月/日)	収量調査結果				
					稈長 (cm)	乾物収量		乾物率 (%)	TDN収量 (kg/10a)
						全重 (kg/10a)	雌穂重 (kg/10a)		
本年	5/24	6/ 2	8/ 4	9/10	269	1,918	913	27.1	1,311
平年	5/19	5/27	8/ 7	9/22	269	1,514	883	32.1	1,077
平年比	5日遅	6日遅	3日早	12日早	100%	127%	103%	84%	122%

※平年値：H30～R 5年の6年間の平均値

8 気象災害

(1) 災害概況

ア 令和6年8月16日からの大雨の影響で、東北町滝沢平地区の畑法面が崩落する被害があった。

イ 令和6年12月からは冬型の気圧配置や上空の強い寒気の影響により、降雪日が続き、12月下旬には一部の市町村で大雪警報が発表された。さらに、令和7年1月初旬にも続けて大雪警報が発表され、積雪量が平年の記録を大きく上回る記録的な豪雪となり、農業用パイプハウスや畜産の牛舎が全壊するなどの被害が確認された。

(2) 災害発生による被害額等

ア 令和6年8月中旬の大雨による被害

畑法面の崩落 1箇所 (0.02ha) 6,700千円

イ 令和6年12月末からの豪雪による被害(令和7年2月末現在)

(ア) 農業関係被害 被害額：2,739千円(判明分)

・パイプハウス 6棟(全壊4棟、中破2棟)

十和田市 1棟(中破1棟) 470千円

七戸町 2棟(全壊2棟) 791千円

東北町 2棟(全壊2棟) 710千円

六ヶ所村 1棟(中破1棟) 268千円

・田植機 1台(中破1台)

東北町 1台(中破1台) 500千円

(イ) 畜産関係被害 被害額：99,881千円(判明分)

・牧草保管庫 2棟(全壊1棟、大破1棟)

東北町 1棟(全壊1棟) 10,817千円

六ヶ所村 1棟(大破1棟) 8,719千円

・農機具格納庫 1棟(全壊1棟)

東北町 1棟(全壊1棟) 13,629千円

・農機具 8台(全壊8台)

東北町 8台(全壊8台) 10,000千円

・牛舎 2棟(全壊2棟)

東北町 1棟(全壊1棟) 21,168千円

六ヶ所村 1棟(全壊1棟) 20,720千円

・堆肥舎 2棟(小破2棟)

七戸町 2棟(小破2棟) 11,392千円

・家畜(肉用牛) 4頭

東北町 4頭 3,436千円

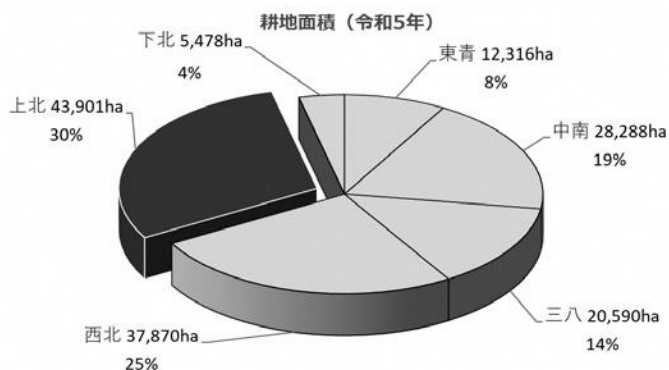
VI 附表

1 地域農業の概要

(1) 耕地面積

耕地面積は43,901haと、県全体(148,400ha)の約3割を占め、県内で最も多い地域である。

その内訳は、水田21,665ha、畑22,199haとなっている。



(単位：ha)

市町村	耕地面積	田		畑		担い手への集積率 (%)
十和田市	12,200	8,330	68.3%	3,820	31.3%	61.1%
三沢市	3,750	1,840	49.1%	1,910	50.9%	57.8%
野辺地町	641	202	31.5%	439	68.5%	30.7%
七戸町	6,880	3,810	55.4%	3,070	44.6%	48.3%
六戸町	3,430	1,930	56.3%	1,500	43.7%	62.1%
横浜町	2,130	353	16.6%	1,780	83.6%	46.3%
東北町	8,000	3,060	38.3%	4,940	61.8%	49.2%
六ヶ所村	3,690	530	14.4%	3,160	85.6%	48.0%
おいらせ町	3,180	1,610	50.6%	1,580	49.7%	50.8%
上北計	43,901	21,665	49.3%	22,199	50.1%	53.7%
県計	148,400	78,100	52.6%	70,300	47.4%	58.5%

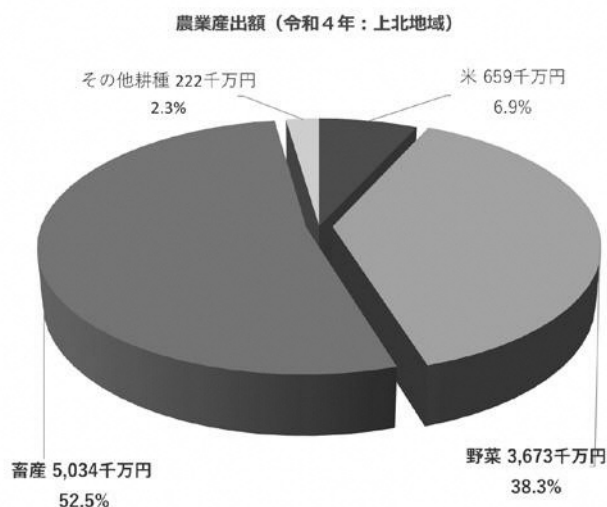
[耕地面積は令和5年作物統計、担い手への集積率は東北農政局調べ (令和6年3月)]

(2) 農業産出額

令和4年の上北地域の農業産出額は961億円で県全体の30.4%を占め、地域別では県内1位となっている。

特に、野菜は県全体の55.9%、畜産も県全体の51.8%と約5割を占めている。

地域全体では、耕種と畜産が半々の構成となっている。



Ⅵ 付表

上北の市町村別農業産出額（令和４年）

（単位：千万円、％）

市町村	耕 種				畜 産						合計
	米	野菜	その他	計	肉用牛	乳用牛	豚	鶏	その他	計	
十和田市	299	712	35	1,046	403	27	987	63	0	1,480	2,526
三 沢 市	17	593	29	639	35	25	406	306	47	819	1,458
野辺地町	2	23	2	27	－	181	－	－	0	181	208
七 戸 町	123	218	30	371	621	11	30	－	5	667	1,038
六 戸 町	68	491	10	569	4	5	X	0	13	22	591
横 浜 町	14	27	68	109	39	40	X	956	14	1,049	1,158
東 北 町	92	799	38	929	78	184	27	117	1	407	1,336
六ヶ所村	5	285	6	296	107	230	X	0	1	338	634
おいらせ町	39	525	28	592	14	12	45	－	0	71	663
上北計	659	3,673	246	4,578	1,301	715	1,495	1,442	81	5,034	9,612
県	4,052	6,570	11,036	21,898	1,710	893	2,021	4,597	110	9,721	31,620
上北/県	16.3%	55.9%	2.2%	20.9%	76.1%	80.1%	74.0%	31.4%	73.6%	51.8%	30.4%

注）「0」：単位に満たないもの（例：0.4千万円→0千万円）

「－」：事実不詳または調査を欠くもの

「X」：個人または法人その他の団体に関する秘密を保護するため、統計数値を公表しないもの。

〔令和４年市町村別農業産出額（推計）〕

（３）農家数

上北地域の総農家数は、令和２年には6,630戸で県全体の18.2％を占めている。このうち販売農家は5,177戸で、平成27年対比77.2％と減少している。

基幹的農業従事者は、65歳以上の割合が64.8％と高齢化が進んでいる。

上北の市町村別農家戸数等の推移（単位：戸、％）

市町村	総農家数	販 売 農 家	自給的 農 家
十和田市	2,307	1,865	442
三 沢 市	436	374	62
野辺地町	120	51	69
七 戸 町	1,008	769	239
六 戸 町	746	598	148
横 浜 町	228	119	109
東 北 町	1,021	857	164
六ヶ所村	217	161	56
おいらせ町	547	383	164
上北計	6,630	5,177	1,453
県	36,465	28,062	8,403
上北/県	18.2%	18.4%	17.3%

〔2020 農林業センサス〕

上北の市町村別基幹的農業従事者人口の年齢構成 (単位：人、%)

市町村	15～29歳	30～59歳	60歳以上	うち65歳以上	計	65歳以上の比率
十和田市	37	523	2,377	2,072	2,937	70.5
三 沢 市	16	201	470	387	687	56.3
野辺地町	2	13	57	48	72	66.7
七 戸 町	11	217	943	823	1,171	70.3
六 戸 町	8	167	718	600	893	67.2
横 浜 町	5	50	142	117	197	59.4
東 北 町	28	386	1,126	910	1,540	59.1
六ヶ所村	6	102	202	147	310	47.4
おいらせ町	12	183	474	390	669	58.3
上北計	125	1,842	6,509	5,494	8,476	64.8
県	725	11,921	35,437	29,326	48,083	61.0
上北/県	17.2	15.5	18.4	18.7	17.6	18.7

※基幹的農業者とは、15歳以上の世帯員のうち、普段仕事として主に自営農業に従事している者
[2020 農林業センサス]

(4) 将来人口の推計値

多くの市町村で、2020年から2030年の間に人口が1割程度減少すると推計されている。

上北の市町村別人口の推計値 (単位：人、%)

市区町村	2020年の 総人口	2020年の総人口を100としたときの指数						2030年の 総人口	75歳以上の構成比
		2025	2030	2035	2040	2045	2050		
十和田市	60,378	94.7	89.0	83.1	77.0	70.7	64.5	53,728	24.2
三 沢 市	39,152	95.8	91.2	86.6	81.7	76.5	71.1	35,706	18.2
野辺地町	12,374	88.7	80.5	72.3	64.5	57.0	49.7	9,960	27.7
七 戸 町	14,556	90.9	82.0	72.4	64.9	56.9	49.5	11,931	29.6
六 戸 町	10,447	96.3	93.2	89.4	85.6	81.6	77.5	9,740	22.0
横 浜 町	4,229	92.4	84.6	77.0	69.8	62.5	55.6	3,579	28.6
東 北 町	16,428	92.1	84.4	76.9	65.9	62.3	55.5	13,872	27.2
六ヶ所村	10,367	95.1	90.2	85.0	79.2	73.0	66.7	9,349	16.9
おいらせ町	24,273	98.4	95.9	92.5	88.4	83.8	78.8	23,271	18.5
上北計	192,204	94.6	89.0	83.3	77.5	71.4	65.4	171,136	22.6
県	1,237,984	93.5	87.0	80.4	73.9	67.3	61.0	1,076,878	23.4

[国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（令和5年（2023）年推計）」]

(5) 担い手

ア 認定農業者

管内における令和6年3月末現在の認定農業者数は、1,937経営体となっている。

イ 新規就農者と4Hクラブ員

令和5年度の新規就農者は47人となっている。

4Hクラブには令和6年度に40人の農業青年が所属し、プロジェクト活動や交流会等の活動を行っている。

ウ 農業経営士、青年農業士、ViC・ウーマン

令和6年度は農業経営士40人、青年農業士39人、ViC・ウーマン43人の計122人が、農業リーダーとして地域農業の振興に活躍している。

上北の農業リーダー数

(単位：人)

市町村名	農業経営士		青年 農業士	小 計	ViC・ ウーマン	合 計
	名 誉	現 役				
十和田市	16	6	6	28	9	37
三 沢 市	5	2	2	9	1	10
野辺地町	2	1	0	3	3	6
七 戸 町	3	4	2	9	5	14
六 戸 町	10	8	2	20	4	24
横 浜 町	0	1	1	2	5	7
東 北 町	6	11	14	31	9	40
六ヶ所村	4	1	6	11	2	13
おいらせ町	2	6	6	14	5	19
上 北 計	48	40	39	127	43	170

(6) 管内の主要作物・野菜作付面積・主要家畜飼養頭羽数

ア 主要作物作付面積 (令和6年産)

(単位：ha)

市町村名	水稻	主食用	飼料用	その他	大豆	麦	そば	なたね	葉たばこ
十和田市	4,146	3,022	941	183	281	113	237	2	4.6
三 沢 市	386	201	149	36	-	-	-	2	-
野辺地町	12	12	-	-	-	-	12	-	-
七 戸 町	2,245	1,272	655	318	265	5	44	-	6.8
六 戸 町	995	691	277	27	14	-	55	-	8.6
横 浜 町	149	142	7	-	-	-	-	-	-
東 北 町	1,440	1,102	203	135	26	-	15	-	7.6
六ヶ所村	54	20	34	-	-	-	1	-	-
おいらせ町	515	456	59	-	-	-	-	-	0.6
上 北 計	9,942	6,918	2,325	699	586	118	364	4	28.2

※「飼料用」は飼料用米、WCS用稲、「その他」は、加工用米、米粉用米、輸出用米、備蓄米

[令和6年産の水田における地域農業再生協議会別の作付状況について (農林水産省)]

※葉たばこ：令和6年 青森県たばこ耕作組合調べ

イ 主要野菜作付面積（令和5年産）

（単位：ha）

市町村	ながいも	にんにく	ごぼう	だいこん	にんじん	キャベツ	ねぎ	トマト	ばれいしょ	こかぶ
十和田市	224	397	271	63	10	6	105	1	0	3
三沢市	154	171	309	120	179	4	1	0	64	0
野辺町	21	0	2	0	1	0	0	0	2	35
七戸町	65	300	14	2	0	3	4	11	0	2
六戸町	83	116	225	39	67	0	0	0	2	0
横浜町	29	4	13	0	1	0	0	0	142	0
東北町	324	137	225	100	43	27	4	2	61	33
六ヶ所村	151	3	21	41	25	14	0	0	9	0
おいらせ町	60	20	160	300	220	96	2	1	7	0
上北計	1,111	1,147	1,240	665	545	150	116	15	288	73

※合計値は小数点以下の四捨五入により一致しない

[令和5年度 上北地域県民局調べ]

ウ 主要家畜飼養頭羽数（令和6年2月1日現在）

（単位：頭、千羽）

種目 市町村名	乳用牛（雌）		肉用牛		豚	採卵鶏	ブロイラー
		うち 2歳以上		うち 繁殖雌			
上北計	9,938	6,462	38,538	8,302	248,086	2,027	4,087
県計	12,115	7,924	56,713	13,800	367,379	6,652	8,473
上北/県	82.0%	81.5%	68.0%	60.2%	67.5%	30.5%	48.2%

[令和6年 県畜産課調べ]

2 令和6年度生育観測ほ及び各種展示ほ一覧

(1) 水稻

ア 生育観測ほ

市町村名	区 分	地 点	品 種 名	担 当	備考
十和田市	県生育観測ほ	晴 山	まっしぐら	米田 一典	
		高清水	まっしぐら	附田 常雄	
	地区生育観測ほ	沢 田	まっしぐら	沢井 清治	
		藤 坂	まっしぐら他	十和田アグリ(株)	奨励
七戸町	県生育観測ほ	道ノ上	まっしぐら	天間 正大	
	地区生育観測ほ	向 田	まっしぐら	赤沼 秀徳	
東北町	県生育観測ほ	上 野	まっしぐら	蛭名 勝四郎	
	地区生育観測ほ	内蛭沢	まっしぐら	蛭沢 渉	
野辺地町	地区生育観測ほ	川 目	まっしぐら	荒谷 房志	
横浜町	地区生育観測ほ	本 町	まっしぐら	杉山 和彦	
三沢市	地区生育観測ほ	浜三沢	まっしぐら	種市 浩継	
六戸町	地区生育観測ほ	上吉田	まっしぐら	赤石 義周	奨励
おいらせ町	県生育観測ほ	本 村	まっしぐら	田中 正幸	
	地区生育観測ほ	日ヶ久保	まっしぐら	沼端 務	
六ヶ所村	地区生育観測ほ	平 沼	まっしぐら	田中 健	

イ 農薬・肥料展示ほ

市町村名	資 材 名	地 点	内 容 等	担 当
七戸町	(仮称)SCU入り水稻一発468	荒 屋	肥 料	作田 安喜男

ウ その他(事業等)

市町村名	展 示 区 分	地 点	担 当
十和田市	「はれわたり」指導拠点ほ	高清水	須田山 純一
	「ゆたかまる」展示ほ	赤 沼	(農)赤沼営農組合
七戸町	「はれわたり」指導拠点ほ	荒 屋	野月 紀幸
		蒼 前	天間 幸二郎
	水稻多収有望系統現地実証ほ	道ノ上	天間 正大
東北町	「はれわたり」指導拠点ほ	才市田	米内山 寧夫
三沢市	飼料用品種展示ほ	庭 構	(農)フラップあぐり北三沢
六戸町	「はれわたり」指導拠点ほ	下吉田	赤石 義周
おいらせ町	「はれわたり」調査ほ	間 木	袴田 喜代美
		日ヶ久保	沼端 務

(2) 畑作

ア 生育観測ほ等

品目	市町村名	区 分	地 点	品種名	担 当
小麦	十和田市	県生育観測ほ	相 坂	ネバリゴシ	竹ヶ原 善昭
		地区生育観測ほ	赤 沼	ネバリゴシ	(農)赤沼営農組合
		地区生育観測ほ	相 坂	ネバリゴシ	十和田アグリ(株)
大豆	十和田市	県生育観測ほ	切 田	おおすず	(農)下切田
		地区生育観測ほ	赤 沼	おおすず	(農)赤沼営農組合
	七 戸 町	地区生育観測ほ	柳 平	おおすず	(有)みらい天間林
そば	十和田市	品種展示ほ	奥 瀬	にじゆたか	(農)中矢営農組合
	東 北 町	品種展示ほ	上板橋	にじゆたか	(有)みらい天間林
	野辺地町	品種展示ほ	明戸鳥井平	にじゆたか	もちの里づくり協議会

イ その他(事業等)

品目	品目	展 示 区 分	地 点	担 当
大豆	十和田市	大豆生産性改善展示ほ	三本木	十和田アグリ(株)

(3) 野菜

ア 生育観測ほ

品 目	市町村名	区 分	地 点	品種名	担 当
にんにく	十和田市	地区生育観測ほ	沢 田	白玉王	戸舘 快之
	七戸町	県生育観測ほ	榎 林	白玉王	高田 幸三
		地区生育観測ほ	沼ノ沢	白玉王	山田 正
	東北町	地区生育観測ほ	長久保	白玉王	鎌本 幸男
		地区生育観測ほ	本 村	白玉王	沼尾 賢一
	六戸町	地区生育観測ほ	犬落瀬	白玉王	山本 初夫
ながいも	三沢市	地区生育観測ほ	下 野	園試系6	檜山 清勝
	七戸町	地区生育観測ほ	治部袋	園試系6	寺澤 和夫
	東北町	県生育観測ほ	滝沢平	庄司系	岡山 雄哉
		地区生育観測ほ	甲 地	庄司系	甲地 俊仁
			上 野	園試系6	蛭名 精
			野田頭	トロフィー	野田頭俊一
	六ヶ所村	地区生育観測ほ	倉 内	庄司系	高村 高雄
やまのいも	六ヶ所村	地区生育観測ほ	平 沼	ネバリスター	ふじや農産
露地ねぎ	十和田市	県生育観測ほ	洞 内	夏扇パワー	中野 智仁
春だいこん	おいらせ町	県生育観測ほ	内山平	春の星	吉田 良紀
秋冬だいこん	東北町	県生育観測ほ	乙 部	S-139	乙部 大作
ばれいしょ	三沢市	県生育観測ほ	庭 構	メーカーイン	水沢 勝広
春夏にんじん	六戸町	県生育観測ほ	上吉田	紅吉	山内松次郎
夏にんじん	東北町	地区生育観測ほ	大 浦	紅福	小笠原佳大
ご ぼ う	三沢市	県生育観測ほ	猫 又	柳川理想	駒沢 慎
	東北町	地区生育観測ほ	往来ノ上	柳川理想	新堂 卓美

イ 農薬・肥料展示ほ

品目	市町村名	資材名	内容等	地 点	担 当
ご ぼ う	三 沢 市	(仮称)ニッピ 野菜専用一発肥料	肥 料	猫 又	駒沢 慎
ばれいしょ	三 沢 市	ゾーベックエンテ クタSE	殺菌剤	大 津	吉田 和雄

ウ その他（事業等）

品 目	市町村名	展 示 区 分		地 点	担 当
にんにく	十和田市	新品種栽培 技術実証ほ	JA十和田おいらせ	相 坂	竹島 大志
	東 北 町		JAゆうき青森	水 喰	甲地 武仁
	三 沢 市		JAおいらせ	庭 構	小向 誠広
	七 戸 町	持続可能な中部上北スタイル		柴館道ノ下	木村 悠平
	東 北 町	水田農業推進事業実証ほ		弥 太 郎	東北農事組合法人
たまねぎ	東 北 町	持続可能な中部上北スタイル 水田農業推進事業実証ほ		間 手 場	農事組合法人 青森マエダライス
ながいも	三 沢 市	種苗増殖方法	JAおいらせ	平 畑	駒沢 慎
	東 北 町	改善実証ほ	JAゆうき青森	外 蛭 沢	向井 徳敦
	三 沢 市	新品種栽培	JAおいらせ	谷 地 頭	織笠 義信
	七 戸 町	技術試験展示	JA十和田おいらせ	太 田	寺澤 和夫
	東 北 町	ほ	JAゆうき青森	外 蛭 沢	向井 博徳
こ か ぶ	野辺地町	品種比較展示ほ		明戸島井平	高松 誠
	東 北 町			滝 沢 山	洞内 英樹
	野辺地町	減肥実証ほ		明戸島井平	亀田 健吾
		肥料コスト低減に向けた 地域資源活用実証・展示ほ		明戸島井平	田村 敬一
ばれいしょ	東 北 町	品種「ピルカ」地域適応性調査ほ		甲 地	沼山 直人
	三 沢 市			庭 構	水沢 勝広

(4) 果樹

品 目	市町村名	区 分	地 点	品 種 名	担 当
りんご	十和田市	地区生育観測ほ	米 田	ふじ	大竹 光雄
ブルーベリー	十和田市	地区生育観測ほ	藤 島	アーリーブルー ほか7品種	国分 弘志

(5) 飼料作物

品 目	市町村名	区 分	地 点	品 種 名	担 当
牧 草	十和田市	県生育観測ほ	米 田	オーチャードグラス	布施 和昭
飼 料 用 とうもろこし	東 北 町	県生育観測ほ	北 栄	スノーデント110日	(農)北栄トラク ター利用組合

3 上北地域の農業士会

(1) 農業士会の状況

令和7年1月1日現在

団 体 名	会 長	人 数			
		名 誉 農業経営士	農 業 経営士	青 年 農業士	計
十和田地区農業士会	天間 正大	19	10	8	37
三沢地区農業士会	合川 聡彦	19	20	13	52
六戸町農業士会	佐藤 隆	10	8	2	20
おいらせ町農業士会	遠藤 忍	2	6	6	14
野辺地地区農業士会	乙部 英夫	10	10	18	38

(2) 各地区市町村別人数内訳

令和7年1月1日現在

地区名	市町村名	名 誉 農業経営士	農業経営士	青年農業士	計
十和田地区	十和田市	16	6	6	28
	七戸町	3	4	2	9
三 沢 地 区	三沢市	5	2	2	9
	六戸町	10	8	2	20
	東北町(旧上北町)	2	4	3	9
	おいらせ町	2	6	6	14
野辺地地区	野辺地町	2	1	0	3
	東北町(旧東北町)	4	7	11	22
	横浜町	0	1	1	2
	六ヶ所村	4	1	6	11
合 計		48	40	39	127

4 かみきたVIC・ウーマンの会

令和6年4月1日現在

代 表 者	構 成 員			
	構成員数	市 町 村 別 内 訳		
山本 ヒデ（六戸町）	43名	十和田市	9名	横浜町 5名
		三沢市	1名	東北町 9名
		野辺地町	3名	六ヶ所村 2名
		七戸町	5名	おいらせ町 5名
		六戸町	4名	

5 かみきた農と暮らしの研究会

令和6年4月1日現在

代 表 者	構 成 員			
	構成員数	市 町 村 別 内 訳		
江刺家 りつ子 （東北町）	11グループ 37名	十和田市	5グループ	15名
		六戸町	1グループ	2名
		東北町	3グループ	14名
		おいらせ町	2グループ	6名

6 とわだグリーン・ツーリズム研究会

令和6年4月1日現在

役 職	氏 名	市 町 村 名
会 長	天間 正大	七戸町
副会長	久野 礼子	十和田市
会計・書記	中屋敷 ひとみ	十和田市
監 事	寺下 良次	十和田市
	中野渡 利彦	十和田市
	竹ヶ原 祐子	十和田市
	中野 とし子	十和田市
	日野口 敏章	十和田市

7 農村青少年クラブ

(1) 上十地区4Hクラブ連絡協議会

令和7年1月1日現在

代 表 者	構 成 員	
	構成員数	市 町 村 別 内 訳
蛸沢 守皓（東北町）	20名	東北町 17名 六ヶ所村 3名

(2) 三沢地区農村青少年クラブ連絡協議会

令和7年1月1日現在

代 表 者	構 成 員	
	構成員数	市 町 村 別 内 訳
法霊崎 誠也（おいらせ町）	11名	三沢市 5名 おいらせ町 6名

(3) 十和田七戸4Hクラブ

令和7年1月1日現在

代 表 者	構 成 員	
	構成員数	市 町 村 別 内 訳
佐々木 基（十和田市）	9名	十和田市 4名 七戸町 5名

8 直売運営団体

令和6年4月1日現在

市町村名	施設名	団体・代表者名	備考
十和田市	道の駅とわだ「とわだぴあ」	株式会社産直とわだ 代表取締役社長 豊川 聡士	○
	JA十和田おいらせ ファーマーズ・マーケット かだあへれ	十和田おいらせ農業協同組合 代表理事組合長 畠山 一男	
	道の駅奥入瀬 観光物産館 「四季彩館」	十和田湖ふるさと活性化友の会 会長 高瀬 三千枝	
七戸町	道の駅しちのへ「産直七彩館」	(株)七戸物産協会 代表取締役 盛田 隆造	
三沢市	みさわビードル広場定期市	みさわ味彩の会 会長 駒沢 洋子	
	道の駅みさわ「くれ馬ぱ〜く」	道の駅みさわ産直友の会 会長 織笠 悦雄	
	みさわやさい市場	三沢市近郊やさい生産組合 組合長 浦田 秀人	
	三沢市漁協直売所	三沢市漁協協同組合 代表理事組合長 熊野 稔	
	(株)ゆめグリーン Aコープ三沢店	Aコープ三沢店 店長代理 長谷部 さゆり	
六戸町	道の駅ろくのへ 「メイプルふれあいセンター」	株式会社産直ろくのへの郷 代表取締役社長 小向 保廣	
おいらせ町	おいらせ町 味祭館	百石ふるさとの味研究会 会長 橋本 サト	○
	おはよう広場	十和田おいらせ農業協同組合 代表理事組合長 畠山 一男	
	観光農園 アグリの里おいらせ	株式会社アグリの里おいらせ 代表取締役 苔米地 義之	○
	ファーマーズマルシェ hitotsubu	企業組合ノエル 代表理事 古舘 留美子	
東北町	道の駅おがわら湖「湖遊館」	道の駅おがわら湖産直友の会 会長 竹内 勝子	○
野辺地町	JAゆうき青森野菜直売所 あぐりハウス「すずな」	JAゆうき青森野辺地営農センター 野辺地野菜販売協議会 会長 田村敬一	
横浜町	道の駅よこはま 「菜の花プラザ」	なたねの会 会長 澤谷 久美子	○
六ヶ所村	六ヶ所村特産品販売所 六旬館	一般社団法人 六ヶ所村観光協会 会長 及川 次夫	

(※ 備考欄の○印は、「かみきた産直ネットワーク」加入組織

令和6年度普及指導活動のまとめ

令和7年3月発行

編集・発行／ 上北地域県民局地域農林水産部
青森県十和田市西十二番町20-12
(県十和田合同庁舎内)
電 話 (0176)22-8111(代表)
(0176)23-4281(直通)
印刷・製本／ ワタナベサービス株式会社

この冊子は 360 部作成し、印刷経費は一部あたり506円です。

